

**DSJ2012**  
Digital Signage Japan  
デジタルサイネージ ジャパン

事前登録・最新情報はコチラ

<http://www.f2ff.jp/dsj/>

マルチスクリーン時代の  
コミュニケーションデザイン  
イノベーション

主催 デジタルサイネージ ジャパン 2012 実行委員会 運営 デジタルサイネージコンソーシアム / 株式会社ナノオプト・メディア

**INTEROP**  
TOKYO | 12 - 15 JUNE, 2012

事前登録・最新情報はコチラ

<http://www.interop.jp/>

ビジネスとテクノロジーのリーダーとユーザーが会い、  
マーケットスタンダードが生まれる、  
最先端ICTテクノロジーイベント

Discover IT  
～ICTの変動を見極める3日間～

主催 Interop Tokyo 2012 実行委員会 運営 財団法人インターネット協会 / 株式会社 ナノオプト・メディア 特別協力 WIDEプロジェクト

CONFERENCE PROGRAM GUIDE  
コンファレンスプログラムガイド

会場 幕張メッセ 会期 6月13日(水) 10:30~18:00  
6月14日(木) 10:00~18:00  
6月15日(金) 10:00~17:00

※一部コンファレンスは、12日(火)から開催しております。

CONFERENCE PROGRAM GUIDE  
コンファレンスプログラムガイド

会場 幕張メッセ 会期 6月13日(水) 10:30~18:00  
6月14日(木) 10:00~18:00  
6月15日(金) 10:00~17:00

※一部コンファレンスは、12日(火)から開催しております。

Location  
Business  
Japan 2012

スマートデバイス  
ジャパン 2012

空間と情報は融合して  
無限のカタチへ

スマートフォン・クラウドデバイスで  
ビジネスをもっと自由にする

**IMC** TOKYO  
2012  
nterop Media Convergence

事前登録・最新情報はコチラ

<http://www.imctokyo.jp/>

ポストデジタル時代突入へ  
～ワンユーザー・マルチスクリーン時代を勝ち抜くための専門イベント～

主催 IMC Tokyo 2012 実行委員会 運営 株式会社ナノオプト・メディア 運営協力 株式会社映像新聞社

事前登録・最新情報はコチラ

<http://www.f2ff.jp/lbj/>

事前登録・最新情報はコチラ

<http://www.f2ff.jp/sdj/>

# コンファレンスガイド

## 情報システム、ネットワークに携わる 技術者・運用管理者のためのプログラム!

ここでしか“聴けない”、ここでしか“体験できない”キーテクノロジーを網羅した75セッション。

6月12日(火) 聴講 有料 Webからの事前登録制 逐次通訳(English Speaker) 英語での講演には、逐次通訳をご用意致します

NW-01 ROOM-301 10:00 - 17:00 スマートグリッドの最新標準化動向	NW-02 ROOM-302 10:00 - 17:00 Enterprise ネットワーク構築ガイド ～部署単位から企業レベルまで; ネットワーク構築の道しるべ～	NW-03 ROOM-303 10:00 - 17:00 知って使える! 得する! ネットワーク&ケーブリング講座 ～ICT/DCのフレキシビリティ・拡張性にむけて～
モデレータ 神竹 孝至/株式会社 東芝 スピーカー 正畑 康郎/株式会社 東芝 坂本 紀代美/経済産業省 John Lin/Wireless Glue Networks Inc. Jens Hempel/TUV Rheinland Japan Ltd. 二串 裕人/株式会社チャイナウェイ	モデレータ 宮永 直樹/NEC スピーカー 寺澤 知昭/トヨタ自動車株式会社 三保 尚澄/EMCジャパン株式会社 山城 重成/株式会社ラク 和田 瑞穂/伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	モデレータ 西牧 哲也/特定非営利活動法人日本データセンター協会 ヤフー株式会社 スピーカー 花山 寛/ネットワンシステムズ株式会社 今野 大地/ネットワンシステムズ株式会社 長田 尚理/住友電気工業株式会社 新田 典代志/バンドウイットコーポレーション日本支社 穴戸 隆志/さくらインターネット株式会社 鈴木 貴雄/ソフトバンクテレコム株式会社
NH-01 ROOM-304 10:00 - 17:00 データセンター/クラウド事業者の為のOpenFlow/仮想ネットワーク構築講座	NH-02 ROOM-103 10:00 - 17:00 サーバー運用の極意 ～さくらインターネット田中社長が教える プロフェッショナル・オペレーションへの道～	
モデレータ 三崎 豊弘/日商エレクトロニクス株式会社 インストラクタ 進藤 貴訓/ニシラ・ジャパン合同会社 加藤 平/ニシラ・ジャパン合同会社	中島 弘一/日商エレクトロニクス株式会社 高橋 岳/日商エレクトロニクス株式会社	インストラクタ 田中 邦裕/さくらインターネット株式会社

(敬称略)

6月13日(水) 聴講 有料 Webからの事前登録制 逐次通訳(English Speaker) 英語での講演には、逐次通訳をご用意致します

NH-03 ROOM-304 10:00 - 17:00 IPv6ネットワーク基礎編	NC-01 ROOM-301 12:50 - 14:20 教えてONF ～OpenFlowなんでも Q&Aセッション～	NC-02 ROOM-302 12:50 - 14:20 クラウドコンピューティングサービスの コスト構造と収益モデル	NC-03 ROOM-303 12:50 - 14:20 深刻化するサイバー攻撃の現状と その背景 ～国内の事例と海外の事例にみる APT対応の違いと今後の方向性～	NC-04 ROOM-101 12:50 - 14:20 レピュテーションDB(RDB)の 最新動向 ～企業における標的型対策へ活用 するためのノウハウ～(仮)
インストラクタ 高津 智明/IPv4アドレス枯渇対応タスクフォース テストベッドWG アラクサラネットワークス株式会社 安田 歩/東日本電信電話株式会社	チェア 岩田 淳/NEC スピーカー Dan Pitt/Open Networking Foundation 佐宗 大介/ブロードコムコミュニケーションズシステム株式会社	チェア 伊勢 幸一/株式会社データホテル スピーカー 神谷 修/株式会社インターネットイニシアティブ 山口 亮介/ニフティ株式会社	チェア 高橋 正和/日本マイクロソフト株式会社 スピーカー 高倉 弘喜/名古屋大学 高橋 郁夫/BLT法律事務所	チェア 西部 喜康/財団法人日本データ通信協会 テレコム・アイザック推進会議 スピーカー 横山 恵一/NTTコミュニケーションズ株式会社

(敬称略)

NC-05 ROOM-301 14:40 - 16:10 HEMSとスマートメーターの 最新動向	NC-06 ROOM-302 14:40 - 16:10 省エネを実現する ネットワーク技術解説	NC-07 ROOM-303 14:40 - 16:10 いまから始めるAPT (Advanced Persistent Threat)対策 ～巷の対策の有効性を検証する～	NC-08 ROOM-101 14:40 - 16:10 売れるクラウド・買いたいクラウド
チェア 神竹 孝至/株式会社 東芝 スピーカー 松田 洋平/経済産業省 平原 茂利夫/エコーネットコンソーシアム ステファン・キャスコ/ランディス・ギア	チェア 木下 剛/シスコシステムズ合同会社 スピーカー 野崎 洋介/NTT環境エネルギー研究所 百瀬 剛/シスコシステムズ合同会社	チェア 高橋 正和/日本マイクロソフト株式会社 スピーカー 本川 祐治/株式会社日立システムズ 相馬 基邦/独立行政法人 情報処理推進機構	チェア 西村 元一/日本アイ・ピー・エム システムズ・エンジニアリング株式会社 スピーカー 山口 亮介/ニフティ株式会社 小島 英揮/アマゾン データ サービス ジャパン株式会社 桑野 章弘/株式会社サイバーエージェント 佐々木 庸平/楽天株式会社 清水 宣行/日本アイ・ピー・エム システムズ・エンジニアリング株式会社

NC-09 ROOM-301 16:30 - 18:00 本格稼働を開始する IPv6サービス基盤と World IPv6 Launch速報	NC-10 ROOM-302 16:30 - 18:00 オープンIaaS基盤の最新技術と ビジネス動向	NC-11 ROOM-303 16:30 - 18:00 ルーティング最新動向 ～IPv6, 4byte AS, PKIから セキュリティまで～	NC-12 ROOM-101 16:30 - 18:00 クラウド時代のスケーラビリティと アベイラビリティ技術
チェア 江崎 浩/東京大学大学院 スピーカー Erik Kline/Google 岩佐 功/東日本電信電話株式会社 川村 聖一/NECビッグロブ株式会社 山崎 裕司/BBIX株式会社	チェア 伊勢 幸一/株式会社データホテル スピーカー 安田 忠弘/クリエイションライン株式会社 荒井 康宏/一般社団法人クラウド利用促進機構 (CUPA)	チェア 吉田 友哉/インターネットマルチフィード株式会社 スピーカー 松崎 吉伸/株式会社インターネットイニシアティブ 河野 美也	チェア 野村 祐士/株式会社富士通研究所 スピーカー 小島 英揮/アマゾン データ サービス ジャパン株式会社 鈴木 逸平/RightScale 新井 雅晴/富士通株式会社

NST-01 ROOM-303 18:00 - 20:00 ShowNetテクニカルツアー&セッション(1)			
講演者 ShowNet NOCチームメンバー			

(敬称略)

6月14日(木) 聴講 有料 Webからの事前登録制

NH-04 ROOM-304 10:00 - 17:00 グリーンICTネットワークの設計・構築	NH-05 ROOM-103 10:00 - 17:00 仮想ルータVyattaを使ったネットワーク構築法!
インストラクタ 落合 秀也/東京大学	モデレータ 近藤 邦昭/日本Vyattaユーザー会 株式会社まほろば工房 インストラクタ 浅岡 正和/日本Vyattaユーザー会 有限会社銀座堂
大久保 修一/さくらインターネット株式会社 伊藤 哲史/伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	
NC-13 ROOM-301 12:50 - 14:20 IPv6 Hot Topics 2012	NC-14 ROOM-302 12:50 - 14:20 なぜ、石狩市は 大規模・最先端データセンターの 誘致を企画し、成功に導けたのか?
チェア 江崎 浩/東京大学大学院 スピーカー 西村 一弘/さくらインターネット株式会社 西田 晴彦/NTTアドバンステクノロジ株式会社 佐藤 良/株式会社コナミデジタルエンタテインメント 渡邊 圭太/アカマイ・テクノロジー合同会社	チェア 田中 邦裕/日本データセンター協会 スピーカー 田岡 克介/北海道石狩市 市長
NC-16 ROOM-301 14:40 - 16:10 DNSホットピック2012 ～ISPのDNS運用最新動向～	NC-17 ROOM-302 14:40 - 16:10 省エネ型データセンターの実際 ～運用実績をもとに、その効果を検証する～
チェア 松崎 吉伸/株式会社インターネットイニシアティブ スピーカー 佐々木 達典/KDDI株式会社 西岡 孟明/NTTコミュニケーションズ株式会社	チェア 田中 邦裕/さくらインターネット株式会社 スピーカー 岡田 良介/日本ラッド株式会社 久保 カ/株式会社インターネットイニシアティブ

NC-19 ROOM-301 16:30 - 18:00 Winny開発者が語る P2P 商用化への挑戦	NC-20 ROOM-302 16:30 - 18:00 IT部門はBYOとVDIにどう向き合い、どう対応すべきか? ～コンシューマライゼーション、BYO(私物解禁)の波は、 止められない～	NC-21 ROOM-303 16:30 - 18:00 対決:イサネット・ファブリック
チェア 砂原 秀樹/慶應義塾大学大学院 スピーカー 金子 勇/株式会社Skeed 埴 俊光/弁護士	チェア 榎本 瑞樹/日商エレクトロニクス株式会社 スピーカー 村上 慎一/シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社 木村 滋/シスコシステムズ合同会社	チェア 本林 良太/NEC スピーカー 小宮 崇博/ブロードコムコミュニケーションズ システムズ株式会社 及川 尚/シスコシステムズ合同会社 清川 慎一/ジュニパーネットワークス株式会社
NST-02 ROOM-303 18:00 - 20:00 ShowNetテクニカルツアー&セッション(2)		
講演者 ShowNet NOCチームメンバー		

(敬称略)

6月15日(金) 聴講 有料 Webからの事前登録制

NH-06 ROOM-304 10:00 - 17:00 クラウドマネジメントシステムを使ってIaaS基盤を作ってみよう!	NH-07 ROOM-103 10:00 - 17:00 IPv6ネットワーク基礎編
モデレータ 福田 克/日商エレクトロニクス株式会社 インストラクタ 林 雅之/一般社団法人クラウド利用促進機構(CUPA) 飯塚 雅之/クリエイションライン株式会社	インストラクタ 高津 智明/IPv4アドレス枯渇対応タスクフォース テストベッドWG アラクサラネットワークス株式会社 安田 歩/東日本電信電話株式会社
北瀬 公彦/シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社 榎本 瑞樹/日商エレクトロニクス株式会社	
NC-22 ROOM-301 10:20 - 11:50 IPv4アドレスの枯渇に伴う アドレス移転の実態と今後の動向	NC-23 ROOM-302 10:20 - 11:50 インターネットトラフィック最新状況
モデレータ 仲西 亮子/IPv4アドレス枯渇対応タスクフォース 三井情報株式会社 スピーカー 田中 邦裕/さくらインターネット株式会社 川村 聖一/NECビッグロブ株式会社 川端 宏生/社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター 風間 勇人/サイバーエリアリサーチ株式会社	チェア 永見 健一/株式会社インテック スピーカー 熊木 健二/KDDI株式会社 福田 健介/国立情報学研究所 福田 健平/NTTコミュニケーションズ株式会社

NC-25 ROOM-301 12:50 - 14:20 DNSへの脅威とその対策	NC-26 ROOM-302 12:50 - 14:20 インターネットアジアビジネスの最前線 ～ケーブル、ネット、データセンター、クラウド～	NC-27 ROOM-303 12:50 - 14:20 クラウドセキュリティ標準化動向(1)
チェア 石田 慶樹/日本インターネットエクスチェンジ株式会社 スピーカー 山本 功司/株式会社インターネットイニシアティブ 松崎 吉伸/株式会社インターネットイニシアティブ 坂口 智哉/株式会社日本レジスTRサービス	チェア 石井 秀雄/PACNET Global Singapore PTE LTD. スピーカー 古田 敬/エクイニス・ジャパン株式会社 伊藤 幸夫/NTTコミュニケーションズ株式会社 鹿野 浩司/KDDI株式会社	チェア 門林 雄基/奈良先端科学技術大学院大学 スピーカー 李 民浩/さくらインターネット株式会社 伊勢 幸一/国立情報学研究所 武田 浩一/日本アイ・ピー・エム株式会社

NC-28 ROOM-302 14:40 - 16:10 ファブリック技術と SDNオーケストレーションの最新動向	NC-29 ROOM-301 14:40 - 16:10 新たなネットワーク仮想化技術: L3 NWへのオーバーレイ方式	NC-30 ROOM-303 14:40 - 16:10 クラウドセキュリティ標準化動向(2)
チェア 伊勢 幸一/株式会社データホテル スピーカー 小宮 崇博/ブロードコムコミュニケーションズ システムズ株式会社 榎本 瑞樹/日商エレクトロニクス株式会社	チェア 今井 俊宏/シスコシステムズ合同会社 スピーカー 大久保 修一/さくらインターネット株式会社 中本 滋之/シスコシステムズ合同会社	チェア 門林 雄基/奈良先端科学技術大学院大学 スピーカー 崎村 夏彦/株式会社野村総合研究所 山崎 哲/工科大学

(敬称略)

ネットワーク構築に携わる方、  
企業の情報システム管理・運用に携わる方、  
幕張にお集まりください!!

全40セッションを超えるInterop Tokyoの「エデュケーショナル・コンファレンス」。  
皆様の業務範囲にあわせて7トラックに分けられた充実のラインナップが、  
貴方のスキルアップをサポートします!

## Discover IT

— Invention, Innovation and Business Partners —

プログラム委員会議長からのご挨拶

江崎 浩

Dr.Hiroshi Esaki

Interop Tokyo 2012 プログラム委員会議長  
東京大学大学院  
情報理工学系研究科 教授



復興は、復旧でも再起動でもなく、新しい社会・産業基盤を創造することです。今、日本のインターネット産業は、たくさんの難しい課題を突き付けられています。しかし、これは、成長と創造を産み出すための、神様が与えてくれたチャンスと捉えるべきでしょう。東日本大震災から、ほぼ1年を経過し、既に、復興の実現に資する成果のもと(Seeds)は、具現化の道を探し当てようとしているように思えます。東日本大震災は、単に、津波と地震の災害を受けた東北地区の被災地だけではなく、福島原子力発電所の惨事に伴う原子力発電の停止をもたらし、全国規模での電力供給能力不足という状況を我々に突き付けています。すなわち、我々は、通常の復興よりも、より厳しい過酷な条件で、復興を実現させなければならない状況にあるのです。

日本は、過去にも、このような、他に例を見ない過酷な状況にあっても、知恵と勇気をもって、これに挑戦し、大きな成長を実現してきました。今回も、このようなことが、実現されると信じています。このような、逆境の時にこそ、新しいイノベーションが実現されなければなりません。既に、これまでなかなか具体的な議論が行われなかったスマートメータの導入では、一気に、インターネット技術を用いたグローバルなオープンシステムの適用が真剣に議論されています。あるいは、遅々として進まなかった、クラウドシステムの導入・利用や、情報システムを Off-Premises化するデータセンタとクラウドサービスの利用は、政

府・自治体のシステムのみならず、企業においても、急速に進展しつつあります。IPv4アドレスの枯渇は、既に、既存の情報システムへ影響を出し始めており、2012年6月6日に予定されている IPv6 Launchに向けた対応は、我が国においては、いくつかの特異な環境のために、非常に大きな技術的・ビジネス的問題の解決を要求しています。世界では、「ビッグデータ」というキーワードで、膨大なデータを用いた新しいサービスの議論が行われていますが、日本では、より、現実的な問題として、東日本大震災において、各システムのデータが、分断され共有されることがなかったために、十分なサービスを提供することができなかったことが認識され、より、目的オリエンティッドなビッグデータシステムに対する要求条件を、肌身で感じる事ができた、世界で唯一の国であると考えられるでしょう。

スマートグリッド、スマートコミュニティーに関しては、特に新興国においては、節電・省エネではなく、エネルギーの需要急増に対応可能なシステムの実現を要求していますが、日本においては、エネルギー供給量の減少に対応しながら社会・産業活動の持続性成長を実現するためのイノベーションを要求しており、このように、厳しい要求条件を満足しなければ社会・産業の成長のみならず維持も困難であるという環境での問題解決法を見出す最高の機会を提供してもらっていると考えることができます。

すなわち、今回は、東日本大震災からの復興のプロセスを通じて、日本の社会インフラ全体を、少ないエネルギー消費量で実現する高効率を実現しつつ、世界が称賛した日本品質(Japan Quality)を持つ世界最高水準の耐障害性・事業継続性を持つ、リスク分散化型のインフラへと、進化させることになるでしょう。その結果、我が国の社会インフラと産業・社会システムは、世界最高水準のTHE JAPAN QUALITY へと進化し、傑出した世界競争力を持つこととなります。

Interop Tokyoは、これまで19年間にわたり、The Internetとインターネット関連産業を牽引し国内外のマーケット・スタンダードを確立してきました。今日のテーマである『Discover IT -ICTの変動を見極める3日間』は、今、市場で起こっている未だ顕在化していないIT技術・ITビジネスに関する発明(Innovation/Invention)を、発見(Discover)し、さらにビジネスを興すための発想とビジネスパートナーとの出会いの機会を提供することを目指しています。Interop Tokyoに参加される皆様には、この機会を最大限に活用していただき、最先端のICT技術の動向と現状を把握し、次のインターネット革命を生き抜くに資する、また、この国難を逆に利用し世界最高水準の社会インフラの構築に資する叡智を発見(Discover)する契機としてご利用いただければ幸いです。

## コンファレンス プログラムガイド

🗣️ 逐次通訳(English Speaker) 英語での講演には、逐次通訳をご用意します

※本ガイド記載情報は2012年5月25日現在のものであり、内容は予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

### Interop Tokyo 2012 プログラム委員会

#### 議長

江崎 浩 東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授

#### ファウンダー

高橋 徹 株式会社インターネット戦略研究 代表取締役会長

#### アドバイザー

砂原 秀樹 慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 教授 / 工学博士

近藤 邦昭 株式会社まほろば工房 代表取締役

#### アドバイザー&エディター

本林 良太 日本電気株式会社 ビジネスインキュベーション本部 マネージャー

オーリ・ジェイコブソン シスコシステムズ・インク インターネット プロトコル ジャーナル 編集長

#### プログラム委員

冲中 秀夫 KDDI 株式会社 常勤顧問 工学博士

福智 道一 ソフトバンク モバイル株式会社 プラットフォーム運用本部 副本部長

濱田 正彦 日本アイビーエム システムズ・エンジニアリング株式会社

プラットフォーム・ソリューション・センター

取締役執行役員 システムズ&テクノロジー・エバンジェリスト

株式会社データホテル 情報環境技術研究室 執行役員 CTA 室長

株式会社東芝 研究開発センター 執行役常務待遇 首席技監

シスコシステムズ合同会社 専務執行役員 ボーダレスネットワーク事業統括

日本マイクロソフト株式会社 チーフセキュリティアドバイザー

奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 准教授

さくらインターネット株式会社 代表取締役 社長

株式会社富士通研究所 クラウドコンピューティング研究センター 主任研究員

日商エレクトロニクス株式会社

事業推進部門 技術本部 ソリューションエンジニアリング部 部長

株式会社ナノオプト・メディア 代表取締役会長 兼 社長

(順不同/敬称略)

NW-01	<div> <div><span><span><span></span></span></span></div> <div>環境／エネルギー／スマートグリッド</div> </div>
6月12日(火)10:00~17:00	

## スマートグリッドの最新標準化動向

Recent Standardization Trend around Smart Grid

講師	Moderator / Speakers
<p><b>Moderator</b> <b>神竹 孝至</b></p> <p>株式会社 東芝 研究開発センター 首席技監</p>	
<p><b>Speakers</b> <b>正畑 康郎</b></p> <p>株式会社 東芝 研究開発センター ネットワークシステムラボラトリー 研究主幹</p> <p><b>坂本 紀代美</b></p> <p>経済産業省 産業技術環境局 基準認証政策課</p> <p><b>John Lin</b></p> <p>Wireless Glue Networks Inc. CTO &amp; Co-Founder</p> <p><b>Jens Hempel</b></p> <p>TUV Rheinland Japan Ltd. Senior Specialist</p> <p><b>二串 裕人</b></p> <p>株式会社チャイナウェイ 取締役企画営業部長</p>	

概要	Overview
<p>再生可能エネルギーの普及や送配電の効率化、ピーク電力の削減を目指すスマートグリッドは、米国での2007年エネルギー自給・安全保障法(EISA2007)の制定や、大統領政策をきっかけに世界中から注目されました。日本でも東日本大震災以降、高い関心が集まっています。</p> <p>スマートグリッドは、分散電源や広域系統監視保護制御、AMI(Advanced Metering Infrastructure)といった電力分野の先端技術に加え、BEMS(Bill Energy Management System)、HEMS(Home Energy Management System)、ネットワーク対応家電機器といった需要分野の先端技術を、ICTによって高度に連携させることで実現されます。このことから、スマートグリッドの実現には標準化が極めて重要な役割を担うことになります。そこで本ワークショップでは、スマートグリッド分野を新しいビジネスチャンスとして捉えられている方々に向け、最新の標準化動向をグローバルレベルでのトピックスを含め紹介します。</p>	
要旨	Syllabus

#### I. 標準化動向のグローバルレベルでの俯瞰

- 国際標準化動向概要
  - IEC
  - ITU
  - 関連標準化団体の間で連携を探る動きの活発化

例:SGIPとSG-CGとの間におけるLol (Letter of Intent)の締結

    - SGIP ……Smart Grid Interoperability Panel, 米国NISTが昨年12月に設立
    - SG-CG … Smart Grid Coordination Group, 欧州標準策定団体CEN/CENELEC/ETSIが設立
  - スマートグリッドの相互接続性担保のための協調
  - アーキテクチャ
  - 試験・認証、等

#### II. 日米欧中それぞれの取り組み

- ～それぞれの地域に特徴的な標準化への取り組み、標準化活動の新しいプレーヤーとしての中国の動き～
- 日本:スマートグリッド国際標準化への経済産業省の取り組み
- 米国:米国におけるデマンドレスポンスの現状とOpenADRの果たす役割
  - 米国SGIPで高まるOpenADRへの注目
- 欧州:欧州におけるスマートグリッドと標準化の取り組み
  - 欧州標準策定団体CEN/CENELEC/ETSIによるSG-CGの設立
  - EUが出したスマートグリッドMandate (M/490)
- 中国:中国におけるスマートグリッドと標準化の取り組み

対象者	Who should attend
<p><input type="checkbox"/>スマートグリッドの整備・運用に関わる事業者</p> <p><input type="checkbox"/>スマートグリッド上での新規ビジネスを企画する事業者</p> <p><input type="checkbox"/>サイバーセキュリティ事業者</p>	

対象者	Who should attend
<p><input type="checkbox"/>企業の I T 推進担当者 (企業は数千人規模)</p> <p><input type="checkbox"/>企業向けシステムインテグレータ</p> <p>※初級・中級のな位置づけとして、基本的な構築のポイントを中心としたものとなります。</p>	

NW-02	<div> <div><span><span><span></span></span></span></div> <div>ネットワークインフラ</div> </div>
6月12日(火)10:00~17:00	

## Enterprise ネットワーク構築ガイド

～部署単位から企業レベルまで; ネットワーク構築の道しるべ～

Enterprise Network Design & Implementation Guide - From Section-scale to Company-scale Networking -

講師	Moderator / Speakers
<p><b>Moderator</b> <b>宮永 直樹</b></p> <p>NEC 第一企業ネットワークソリューション事業部 マネージャ</p>	
<p><b>Speakers</b> <b>寺澤 知昭</b></p> <p>トヨタ自動車株式会社 ITマネジメント部 主幹</p> <p><b>三保 尚澄</b></p> <p>EMCジャパン株式会社 パートナー・テクニカルコンサルティング部 アドバイザリー・テクノロジコンサルタント</p> <p><b>山城 重成</b></p> <p>株式会社ラック サイバーセキュリティ研究所 研究員</p> <p><b>和田 瑞穂</b></p> <p>伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 基盤技術第2部</p>	

概要	Overview
<p>積極的な I T 投資を図れる大企業と、世界一のブロードバンドの普及によって充実する家庭ネットワークの狭間にあるのが、中堅企業の I T 環境です。その多くは現場からの要求により持ち込まれた計画的でない部署単位のネットワークの集合体で、それでいていつの間にか、その不安定な環境に頼らざるを得ない業務が増加してきています。電子メールが電話・F A Xをも凌ぐビジネスツールとなり、様々な情報が電子化されて扱われる今日では、企業全体を通して I T の管理体制がなければ、様々なリスクがあることは多くの経営者が感じていることでしょう。情報漏えい、ソフトウェアのライセンス違反、スパムメールの中継点としての盗用の危険性。これらはプライバシーマークなどの認定にも大きく影響します。しかし、企業の規模によっては、専任の社員を配置することもできず、また、ある程度の費用が必要な外部の運用サービスへの委託もままならない場合もあることでしょう。</p> <p>さらに、スマートデバイスの普及により、個人のITを利用スタイルが大きく変革し、これを職場でワークスタイル変革につなげたいなどネットワーク活用に大きな期待も高まっています。このワークショップは、そのような現状での不安定な運用をやむなく続けている企業において、ある日突然 I T 推進役」に任命された方に贈るものです。製品の細かい仕様や、動いてしまえば意識することがない内部のプロトコルの解説などは省き、「企業としてネットワークシステムをどうしていかなければいけないのか?」、「要件定義はなにをどのように進めるべきか?」、「実際のシステム構築のポイントは?」を中心に扱います。また投資対効果を考えるときの観点や予算取りを行うときのコツについても実務としている講演者からお話します。想定として、パソコンの稼働台数が数千台程度、国内に複数の拠点があり、部署単位の勝手なネットワークが導入されてしまっている仮想企業「幕張製作所」を題材とし、企業の活動基盤となる I T 環境の構築の道を、段階別に疑似体験して頂きます。</p>	
要旨	Syllabus

- ワークショップの全体説明
  - セッションを企画した経緯
  - 企業ネットワークの歴史
  - エンタープライズとしてのNWの要件
  - これからのネットワークの活用のポイントは？
- 仮想企業「幕張製作所」の概略
  - 企業概要
  - 現在のネットワーク構成
  - 中期計画
  - 現在の課題
  - 今後のNW活用の期待
- ファイルサーバーの構築・運用
  - 第一部
    - 情報共有による業務改善
    - 容量の見積もり
    - パフォーマンスに影響する要素
    - ディレクトリーサービス
    - バックアップ
  - 第二部
    - 仮想企業「幕張製作所」におけるファイルサーバの要件定義と構築システム
- セキュリティ対策
  - 第一部
    - 過去のセキュリティ事故から考えるスマートデバイスの安全利用
    - 企業におけるセキュリティ管理のあり方と実情
    - スマートデバイスのセキュリティの考え方
    - 企業ネットワークにおけるセキュリティ対策
  - 第二部
    - 仮想企業「幕張製作所」におけるスマートデバイス活用とセキュリティ
- 最新のLAN構築と安全なモバイル環境
  - 第一部
    - 今までのLAN構築技術
    - LAN構築技術での事例
    - 無線LAN構築技術の今/昔
  - 第二部
    - 最新のトレンドのLAN構築技術
    - モバイル環境での必須なセキュリティ機能
    - VPN/SSL-VPN構築技術の今/昔
    - モバイル環境での事例
- パネル・ディスカッション
  - 仮想企業「幕張製作所」における課題と解決
  - 仮想企業「幕張製作所」におけるNW活用
  - ユーザの立場も交えて
- 会場Q&A
  - 実際の悩みは別なところにある？

対象者	Who should attend
<p><input type="checkbox"/>企業の I T 推進担当者 (企業は数千人規模)</p> <p><input type="checkbox"/>企業向けシステムインテグレータ</p> <p>※初級・中級のな位置づけとして、基本的な構築のポイントを中心としたものとなります。</p>	

NW-03	<div> <div><span><span><span></span></span></span></div> <div>データセンター</div> </div>
6月12日(火)10:00~17:00	

## 知って使える！得する！

## ネットワーク &+ ケーブリング講座

～ICT/DCのフレキシビリティ・拡張性にむけて～

The Cabling Determining Flexibility and Scalability for ICT and Data Center

講師	Moderator / Speakers
<p><b>Moderator</b> <b>西牧 哲也</b></p> <p>特定非営利活動法人日本データセンター協会 理事</p> <p>ヤフー株式会社 執行役員</p>	
<p><b>Speakers</b> <b>花山 寛</b></p> <p>ネットワンシステムズ株式会社 経営企画本部 市場開発室</p> <p><b>今野 大地</b></p> <p>ネットワンシステムズ株式会社 サービス事業グループ サービスソリューション本部</p> <p><b>長田 尚理</b></p> <p>住友電気工業株式会社 光通信事業部技術部 主席</p> <p><b>新田 貴代志</b></p> <p>バンドウイットコーポレーション日本支社 テクニカルセールス部 マネージャ</p> <p><b>穴戸 隆志</b></p> <p>さくらインターネット株式会社 基盤戦略部 担当部長</p> <p><b>鈴木 貴雄</b></p> <p>ソフトバンクテレコム株式会社 保全運用本部施設技術部設備建設課 課長</p>	

概要	Overview
<p>クラウドサービスの普及、災害への対策を背景に、多くのICTシステムがデータセンター (DC) に集約されつつあり、また、その需要はますます高まっています。ICTシステムはラックマウントされることが一般的になっていますが、機器の性能の向上にしたがって各機器内の実装機能は高密度になってきており、それに伴ってラック内・ラック間のケーブリングは複雑さを増しています。さらに、サーバ(機器やL2/L3ネットワークのトポロジ)のトレンドも日々変遷を続けており、発熱、エアフロー、消費電力なども密接な関係にある為、それらの変化に追従した最適なファシリティ、ケーブリングの維持も、重要な課題となってきています。またデータセンターにおいては、急増する需要に応え、迅速かつフレキシブルにフロア内・フロア間のケーブルを提供する必要があることから、計画的な管理が不可欠となっています。このように、ファシリティやケーブリングはICTシステムを語る上で非常に重要なファクターであり、国際的にも各分野で規格の標準化などが進められています。しかし国内ではファシリティやケーブリングの重要性に対する認識は低く、ICT技術者に求められるスキルの細分化・多様化・高度化の中で、これらの技術習得度は相対的に低くなりつつあります。そこで本セッションでは『日本データセンター協会(JDCC)』から、最適なファシリティ、ケーブリングのポリシー策定・設計・施工の際に必要な基礎知識を提供します。とくに、ケーブリングに関する課題・規格・素材・ツール・トラブルの未然防止など、より実践的な知識について紹介します。</p>	

日本データセンター協会(JDCC)とは-『日本データセンター協会(JDCC: Japan Data Center Council)』とは、IT立国の基盤を支える「データセンター」のあるべき姿を追求する、特定非営利活動法人(NPO法人)です。日本のデータセンターは、コスト・性能・安全・信頼などの面において、国際競争力を備えたものへと進化することが急務の課題です。そこでJDCCでは、データセンター事業者と主要データセンター関連事業者の参加を得、水平的かつ垂直的に協力し合うことで、情報共有・技術開発・共同研究を推進し、これら課題の解決に向けて取り組んでいます。

要旨	Syllabus
<ol style="list-style-type: none"><li>『日本データセンター協会(JDCC)』の活動概要</li> <li>データセンター市場動向とアーキテクチャ <ul style="list-style-type: none"><li>データセンター市場の動向</li> <li>データセンターのアーキテクチャとITファシリティ</li></ul></li> <li>ネットワーク側から見たITファシリティ <ul style="list-style-type: none"><li>最新のデータセンター構築事例</li> <li>ラック、エアフロー、ケーブリングなど、ITファシリティの課題</li></ul></li> <li>データセンターにおけるケーブリング、ファシリティ概要 <ul style="list-style-type: none"><li>なぜケーブリングがそこまで重要なのか？</li> <li>L1トポロジとL2/L3トポロジとの関係、TIA/EIA等の標準</li> <li>エアフロー・発熱、メンテナンス性への影響</li> <li>フロア間配線とフロア内配線</li></ul></li> <li>ケーブル線材とケーブルマネジメントシステム <ul style="list-style-type: none"><li>L2の規格とケーブルの規格の関係</li> <li>メタルケーブル/ファイバケーブル</li> <li>多数のケーブルを効率良く引き回す為の管理方法</li></ul></li> <li>サービス事業者における現状の運用・課題 <ul style="list-style-type: none"><li>サービス事業者における、ITファシリティの設計・運用・管理</li> <li>現状の課題</li></ul></li> <li>パネルディスカッション</li></ol>	

対象者	Who should attend
<p><input type="checkbox"/>ユーザ企業様、Sler様でケーブリングに関する設計・施工を担当されている方</p> <p><input type="checkbox"/>サービス事業者様でケーブリングに関する設計・施工を担当されている方</p> <p><input type="checkbox"/>ケーブル、ケーブリングに関連する知識・最新動向を学ばれたい方</p>	

NH-01	<div> <div><span><span><span></span></span></span></div> <div>ネットワークインフラ</div> </div>
6月12日(火)10:00~17:00	

## データセンター/クラウド事業者の為のOpenFlow/仮想ネットワーク構築講座

OpenFlow/Network Virtualization Hands-on Seminar for Datacenter/Cloud Providers

講師	Moderator / Speakers
<p><b>Moderator</b> <b>三崎 豊弘</b></p> <p>日商エレクトロニクス株式会社 サービスプロバイダ事業本部</p>	
<p><b>Speakers</b> <b>進藤 資訓</b></p> <p>ニシラ・ジャパン合同会社 技術部長</p> <p><b>加藤 平</b></p> <p>ニシラ・ジャパン合同会社</p> <p><b>中島 弘一</b></p> <p>日商エレクトロニクス株式会社 事業推進部門 技術本部</p> <p><b>高橋 岳</b></p> <p>日商エレクトロニクス株式会社 サービスプロバイダ事業本部</p>	

概要	Overview
<p>データセンター、クラウドの需要は急成長を続けており、パブリッククラウドに次いで企業むけのプライベートクラウド/バーチャルプライベートクラウドも本格導入が進むものと予測されています。プライベートクラウドは、企業の重要なデータを安全に取り扱う必要があり、そのネットワークに関してはパブリッククラウド以上のセキュリティが求められます。また、VLANなどをベースにしたこれまでの手法では、「オンデマンドセルフサービス」や「即時性を持ったスケールイン・スケールアウト」が求められる昨今のサービスに追従することは難しく、拡張性の面でも限界にきています。さらに、サーバが仮想化された環境においては、仮想サーバごとの所在に応じた適切なネットワーク設定、セキュリティ設定を施す必要があります。くわえて、ライブマイグレーションなどで仮想サーバの物理的な所在が移動する可能性があるため、そのような環境下でもネットワーク、セキュリティの設定を維持するための対策も必要となっています。OpenFlow/ネットワーク仮想化基盤は、それらの課題の解決手法として注目される新たなソリューションです。本セッションは、午前の座学、午後のハンズオンを通した、OpenFlow/ネットワーク仮想化基盤の選定・設計・開発に必要な基礎知識の習得を目的とします。座学では、データセンター/クラウドのネットワークの現状と課題、OpenFlow/ネットワーク仮想化基盤についての技術概要や導入事例、今後の展望について学習します。ハンズオンでは、OpenFlowを応用したネットワーク仮想化基盤であるNicira Network Virtualization Platformを用いて、簡易環境にてネットワーク仮想化基盤の構築を体験・習得します。</p>	
要旨	Syllabus

- 座学 - OpenFlow/ネットワーク仮想化学ぼう！
  - データセンター/クラウドネットワークの現状と課題
  - ネットワークを最適化する為の様々な手法
    - データセンター ファブリックによる物理ネットワークの最適化
    - SDNIによる論理ネットワークの最適化
  - ネットワークの仮想化とは？ OpenFlowとは？
    - ネットワークを仮想化する為の代表的な手法と課題
    - OpenFlow概要、Open vSwitch概要
    - hop by hopモデルとoverlayモデルの比較
  - ネットワーク仮想化製品の最新動向
    - Nicira NVPの現状と最新情報
    - 導入事例
    - 今後のロードマップ
- ハンズオン - Nicira Network Virtualization Platformを使って仮想ネットワークを作ろう！
  - ハンズオン事前説明
    - Nicira NVPのアークテクチャ説明
    - シナリオの説明
    - 環境説明
  - ハイパーバイザ環境設定
    - ハイパーバイザーのインストール
    - Open vSwitch のインストールと設定
    - ハイパーバイザーの設定
    - テナント用仮想サーバの作成
  - Nicira NVP のインストール
    - NVP Controller のインストールと設定
    - NVP Pool Node のインストールと設定
    - NVP Management Console のインストールと設定
  - 仮想ネットワークの作成
    - テナント用の仮想スイッチの作成
    - 仮想スイッチへの仮想サーバの接続
  - 動作確認
    - 仮想サーバ間の疎通確認
    - 仮想サーバのライブマイグレーション確認

＊)ハンズオンは、2名で1システムを操作頂く形となります。

＊)会場環境の都合上、ハンズオンで利用するサーバ郡に関しては、外部のクラウド環境を利用する形となります。

＊)各サーバ、ソフトウェアについては、時間の都合上事前に環境を準備させて頂くため、インストール作業については手順のみ説明・テキスト記載させて頂き、作業自体は割愛させて頂く場合もございます。

本セッションでは、OpenFlow/ネットワーク仮想化基盤の選定・設計・開発に必要な基礎知識の習得を目的とします。

当日持参頂く物:作業用PCとして、以下のスペックのノートPCをご持参下さい。

- 100BASE-TX または 1000BASE-T の有線LANポートを実装している物
- Windowsのリモートデスクトップクライアントがインストールされている物(Windows系OS推奨)

対象者	Who should attend
<p><input type="checkbox"/>データセンター/クラウドサービスのネットワーク基盤の設計・運用担当の方</p> <p><input type="checkbox"/>OpenFlow/ネットワーク仮想化の基礎知識を習得したい方</p> <p><input type="checkbox"/>ネットワークの基礎知識をお持ちであること</p> <p><input type="checkbox"/>サーバ仮想化の基礎知識をお持ちであること</p>	

概要	Overview
<p>再生可能エネルギーの普及や送配電の効率化、ピーク電力の削減を目指すスマートグリッドは、米国での2007年エネルギー自給・安全保障法(EISA2007)の制定や、大統領政策をきっかけに世界中から注目されました。日本でも東日本大震災以降、高い関心が集まっています。</p> <p>スマートグリッドは、分散電源や広域系統監視保護制御、AMI(Advanced Metering Infrastructure)といった電力分野の先端技術に加え、BEMS(Bill Energy Management System)、HEMS(Home Energy Management System)、ネットワーク対応家電機器といった需要分野の先端技術を、ICTによって高度に連携させることで実現されます。このことから、スマートグリッドの実現には標準化が極めて重要な役割を担うことになります。そこで本ワークショップでは、スマートグリッド分野を新しいビジネスチャンスとして捉えられている方々に向け、最新の標準化動向をグローバルレベルでのトピックスを含め紹介します。</p>	
要旨	Syllabus

NH-02	■ データセンター
6月12日(火)10:00~17:00	

## サーバー運用の極意

～さくらインターネット田中社長が教えるプロフェッショナル・オペレーションへの道～

### Tips for Server Operation

- Professional Lecture by Sakura Internet Inc. President Kunihiro Tanaka -

講師	Instructor
<b>Instructor</b> 田中 邦裕	さくらインターネット株式会社 代表取締役 社長

概要	Overview
<p>Linux系のサーバープラットフォームは、その手頃さや汎用性の広さから、さまざまなシステムに組み込まれています。さらに最近では、その多くでGUI化が進められエントリーが容易になったことから、「サーバー管理者」と呼ばれる人が増えてきています。</p>	

しかしながらトラブル発生時、本当に正しい対処がなされているのでしょうか？
すぐに、安直に「リセット」していないでしょうか？
トラブルの再発を防止する運用になっているのでしょうか？
安定稼働を目指していると言えるのでしょうか？

本ハンズオンでは、このようなエントリーレベルのオペレーションからの脱却を目指します。

前半は座学を中心として、プロフェッショナルオペレーションの構成要素を学びます。後半は、(1)OSインストールと有効なツール類の導入、(2)擬似トラブルを作ったの、切り分け～原因究明～復旧オペレーションの演習　を実際に行って頂きます。これらの一連の演習から、「負けない運用」には何が重要なのかを会得いただけます。

要旨	Syllabus
<p>座学　～Linuxの基礎知識とトラブル対応を学ぶ～ 基本項目</p> <ul style="list-style-type: none"><li>Linuxの概要／運用において直面するトラブル／ハードウェアに関する基礎知識</li></ul> <p>コマンドを学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>プロセスに関するもの／メモリに関するもの／ファイルシステムに関するもの</li></ul> <p>ネットワークに関するもの／総合的なもの</p> <p>トラブル対応</p> <ul style="list-style-type: none"><li>基本的な手順／状況の把握と対応／具体的なケーススタディ</li></ul> <p>より高度な対応</p>	

ハンズオン～Linuxの運用を体感する～
OSのインストール
初期設定

- ネットワークの設定／ソフトウェアのインストール

コマンドを使ってみる

具体的な操作を行う

- 基本的な手順を学ぶ／ネットワーク負荷の原因調査と帯域制限

ウェブサーバの調査とチューニング／ディスクIOのチューニング

- サーバが起動しないときの対応／straceによるプロセス解析

- カーネルのクラッシュと解析

トラブルを発生させてみる

※ハンズオンはIaaSクラウド環境を用いて行いますので、操作を行うためにjavaの動作するブラウザが必要です。
※コンソール作業が必要なものを除いて、SSH経由でサーバの操作を行うためSSHクライアントソフトが必要です。

<p><b>当日持参頂く物：</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>作業用PCとして、以下のスペックのノートPCをご持参下さい。 <ul style="list-style-type: none"><li>[ハードウェア] <ul style="list-style-type: none"><li>- CPU:最小750MHz以上(1GHz以上推奨)、RAM:最小1GB以上(2GB以上推奨)</li> <li>- 空きディスク容量:100MB以上</li> <li>- 100BASE-TX または 1000BASE-T のLANポート</li></ul></li> <li>[ソフトウェア] <ul style="list-style-type: none"><li>- OS (Windowsを推奨)</li> <li>- SSHクライアントソフトウェア(TeraTermやputtyなど)</li> <li>- javaの動作可能なブラウザ</li></ul></li></ul></li></ul>
--

対象者	Who should attend
<p><input type="checkbox"/>基本的なマンドラインを理解できる方</p> <p><input type="checkbox"/>OSの基本的なインストールができる方</p>	

NH-03 / NH-07	■ IPv4 アドレス枯渇とIPv6 移行
NH-03 6月13日(水)10:00~17:00 / NH-07 6月15日(金)10:00~17:00	

## IPv6ネットワーク基礎編

講師	Instructor
<b>Instructor</b> 高津 智明	IPv4 アドレス枯渇対応タスクフォース テストベッド WG アラクサラネットワークス株式会社
<b>安田 歩</b>	東日本電信電話株式会社 広域ネットワークセンタ

概要	Overview
<p>昨年のJPNICにおけるIPv4アドレスの通常の割り振りの終了や、今年の「World IPv6 Launch」に見られるように、IPv6の必要性が高まっているのは間違いありません。そこで、こういったトレンドに実践的に応えるため、IPv6のプロトコル・機能の仕組みを理解し、さらに実機を動作させることを目的として、本ハンズオンを開催します。</p> <p>まず、IPv6の機能や特徴についての概要、IPv6を導入するための設計・構築・運用方法、経路制御の方法、運用・監視関連技術について学びます。</p> <p>その後、実機を利用したルータの設定を体験します。</p>	

2014年11月12日(水)10:00~17:00 / 14日(金)10:00~17:00

要旨	Syllabus
<p><b>1コマ目 (座学) IPv6概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>IPv4アドレス枯渇の状況を説明し、IPv6の主な機能や特徴を説明します。</li></ul> <p>IPv4アドレス枯渇を巡る状況</p> <p>IPv6の機能・特徴についての概要(ヘッダ、アドレスの種類など)</p> <p>移行の現状</p>	

<p><b>2コマ目 (座学+実習) クライアント挙動</b></p> <p>1コマ目で学習した内容をもとにWindowsクライアントにIPv6アドレスを設定し、実際のアドレス解決がどのような手順で行われているのかを説明します。</p> <p>IPv6アドレス設定</p> <p>TCPフォールバック問題の説明&amp;体感</p> <p>パケットをキャプチャしながらNDP、RAの動作説明</p> <p>パケットフィルタの説明</p>	
--	--

<p><b>3コマ目 (座学) v6導入のための設計・構築・運用時の注意点</b></p> <p>IPv6の経路制御の方法、運用・監視関連技術について説明します。</p> <p>アドレッシングの方法</p> <p>ルーティング、オペレーションの注意点</p> <p>運用、監視関連(SNMP、Syslog、Flow)</p>	
--	--

<p><b>4コマ目 (座学+実習) ルータの設定</b></p> <p>実際にルータにIPv6アドレスの設定を行い、OSPFv3を設定し、クライアントからの接続性を確認します。</p> <p>本講義のトポロジの説明</p> <p>OSPFv3を使った経路制御の説明</p> <p>ルータへのアドレス設定</p> <p>OSPFv3の設定</p> <p>クライアントマシンからの接続性の確認</p>	
---	--

対象者	Who should attend
<p><input type="checkbox"/>既存のIPv4のネットワークを設計・運用している NW 技術者</p>	

NH-04	■ ネットワークインフラ <ul style="list-style-type: none"><li>■ 環境／エネルギー／スマートグリッド</li> <li>■ データセンター</li></ul>
6月14日(木)10:00~17:00	

## グリーンICTネットワークの設計・構築

講師	Instructor
<b>Instructor</b> 落合 秀也	東京大学 大規模集積システム設計教育研究センター 助教

概要	Overview
<p>電力資源は現在危機的な状況に陥りつつあり、その使用方法の管理が問われる時代になってきています。</p> <p>この問題への解決の糸口となる、グリーンICTネットワーク技術は、2000年代前半から開発が進められておりました。</p> <p>この技術は、2010年代になってさらに進展し、広く使えるレベルにまで成熟しています。</p> <p>本講演は、グリーンICTネットワークとして、オープンに開発が進められている国際標準規格IEEE1888を取り上げ、</p>	

(1) IEEE1888の基礎的な用語を理解し、その動作・構築の原理を習得する、

(2) IEEE1888ネットワークの設計手法を習得する、

(3) IEEE1888機器やソフトウェアの開発方法を習得する、

を狙いとしています。

本講演は、ハンズオンの形式で開催されます。

実際にいくつかの機材を用いながら、IEEE1888を実践的に学習します。

要旨	Syllabus
<p>ご希望</p> <ul style="list-style-type: none"><li>作業用PCとして、以下のスペックのノートPCをご持参ください。 <ul style="list-style-type: none"><li>- Windows系のOSを搭載しているもの</li> <li>- 100BASE-TXまたは1000BASE-Tの有線LANポートを搭載しているもの</li></ul></li> <li>事前に次の無償ソフトウェアを(可能な限り)インストールしてきてください。 <ul style="list-style-type: none"><li>- VMware Player 3.1 または 4.0</li> <li>- putty.exe (http://www.putty.org/)</li></ul></li></ul>	

要旨	Syllabus
<p><b>第1章 IEEE1888の概要と技術的な特徴</b></p> <p>(1) 背景、利用場面、特徴 (2) アーキテクチャ (3) WRITE, FETCH, TRAPの手順</p> <p>(4) ポイントの概念 (5) レジストリ</p> <p><b>第2章 IEEE1888を使ってみる (GW編)</b></p> <p>(1) GWのアーキテクチャ (2) GWの設定と動作 (3) 実践:設定の投入と動作の確認</p> <p><b>第3章 IEEE1888を使ってみる (APP編)</b></p> <p>(1) APPのアーキテクチャ (2) APPの設定と動作 (3) 実践:設定の投入と動作の確認</p> <p><b>第4章 IEEE1888システムの設計・構築・検証</b></p> <p>(1) システム設計の心構え (2) 要件定義、ポイント表の作成 (3) 利用する機器の選定</p> <p>(4) 構築・工事の流れ (5) 検証の方法</p> <p>(6) 実践 1<span> </span>:小規模IEEE1888システムを設計してみる</p> <p>(7) 実践 2<span> </span>:小規模IEEE1888システムを構築してみる</p>	

<p><b>第5章 IEEE1888機器を開発する</b></p> <p>(1) 機器・ソフトウェアの一般的なアーキテクチャ</p> <p>(2) 実装する機能の選択</p> <p>(3) IEEE1888 SDKの使い方</p> <p>(4) 実践:IEEE1888のソフトウェア・プログラミング</p>	
---	--

対象者	Who should attend
<p><input type="checkbox"/>設備ネットワーク設計者</p> <p><input type="checkbox"/>設備ネットワーク機器の開発者</p> <p><input type="checkbox"/>設備情報システム・インテグレーション・エンジニア</p>	

NH-05	■ ネットワークインフラ
6月14日(木)10:00~17:00	

## 仮想ルータVyattaを使ったネットワーク構築法！

講師	Moderator / Instructors
<b>Moderator</b> 近藤 邦昭	日本Vyattaユーザー会 会長 株式会社まほろば工房 代表取締役
<b>Instructors</b> 浅間 正和	日本 Vyatta ユーザー会 ボードメンバー 有限会社銀座堂
<b>大久保 修一</b>	さくらインターネット株式会社 研究所 上級研究員
<b>伊藤 哲史</b>	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 エンタープライズ技術推進部

概要	Overview
<p>ネットワークがクラウド化し、仮想化の世界が広がり続けています。仮想化したネットワークには、仮想化に適応したルータが必要です。それが Vyatta です。Vyatta は、「仮想アプライアンス」という形で提供される仮想のルータです。ソフトウェアとして動作するこの Vyatta も、現在のサーバに導入すれば、十分活用できるパフォーマンスが得られるばかりでなく、普段であれば数百万円する程の様々な機能が、コミュニティバージョンの Vyatta なら無料で使えるすぐれものです。</p> <p>本セッションでは、このVyattaがどのような構成になっているか、そしてどのように活用し、使っていけるのかをハンズオン形式で学んでいきます。 学習内容は、おもに企業ネットワークで使いそうな機能を中心に構成しています。また、Vyatta のコマンドの使い方から学習しますので、Vyatta 初心者から参加できます。ネットワークの初心者でも大丈夫です。残念ながら、「IP アドレスとは何か」「サブネットとは何か」などネットワークに関する初歩的な部分は時間の都合上学習しません。ですので、「サーバのネットワーク設定をしたことがある」「サーバやルータコマンドラインを使った経験がある」という方が対象になります。</p>	

要旨	Syllabus
<p><b>■座学 - Vyatta を学ぼう！</b></p> <p>①Vyatta とは何か？ (概要)</p> <p>②Vyatta の構成と特徴</p> <p>③Vyatta の使い方</p> <p><b>■ハンズオン - 使ってみよう！</b></p> <p>①基本設定</p> <ul style="list-style-type: none"><li>アドレスの設定</li> <li>ルーティングの設定 (デフォルトルート・スタティックルート)</li> <li>アカウントの設定</li> <li>サービスの設定 (SSH・SNMP)</li> <li>DHCP サーバの設定</li> <li>PPPoE の設定</li></ul> <p>②外部のアクセスとセキュリティ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>NAT/NAPT(PortForwarding/Masquerade/Static NAT)</li> <li>ACL</li></ul> <p>②ダイナミックルーティング</p> <ul style="list-style-type: none"><li>OSPF</li></ul> <p>③VPN</p> <ul style="list-style-type: none"><li>IPsec</li> <li>PPTP</li></ul> <p>④HA</p> <ul style="list-style-type: none"><li>VRRP</li></ul>	

要旨	Syllabus
<p><b>■座学 - Vyatta を学ぼう！</b></p> <p>①Vyatta とは何か？ (概要)</p> <p>②Vyatta の構成と特徴</p> <p>③Vyatta の使い方</p> <p><b>■ハンズオン - 使ってみよう！</b></p> <p>①基本設定</p> <ul style="list-style-type: none"><li>アドレスの設定</li> <li>ルーティングの設定 (デフォルトルート・スタティックルート)</li> <li>アカウントの設定</li> <li>サービスの設定 (SSH・SNMP)</li> <li>DHCP サーバの設定</li> <li>PPPoE の設定</li></ul> <p>②外部のアクセスとセキュリティ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>NAT/NAPT(PortForwarding/Masquerade/Static NAT)</li> <li>ACL</li></ul> <p>②ダイナミックルーティング</p> <ul style="list-style-type: none"><li>OSPF</li></ul> <p>③VPN</p> <ul style="list-style-type: none"><li>IPsec</li> <li>PPTP</li></ul> <p>④HA</p> <ul style="list-style-type: none"><li>VRRP</li></ul>	

要旨	Syllabus
<p><b>■座学 - Vyatta を学ぼう！</b></p> <p>①Vyatta とは何か？ (概要)</p> <p>②Vyatta の構成と特徴</p> <p>③Vyatta の使い方</p> <p><b>■ハンズオン - 使ってみよう！</b></p> <p>①基本設定</p> <ul style="list-style-type: none"><li>アドレスの設定</li> <li>ルーティングの設定 (デフォルトルート・スタティックルート)</li> <li>アカウントの設定</li> <li>サービスの設定 (SSH・SNMP)</li> <li>DHCP サーバの設定</li> <li>PPPoE の設定</li></ul> <p>②外部のアクセスとセキュリティ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>NAT/NAPT(PortForwarding/Masquerade/Static NAT)</li> <li>ACL</li></ul> <p>②ダイナミックルーティング</p> <ul style="list-style-type: none"><li>OSPF</li></ul> <p>③VPN</p> <ul style="list-style-type: none"><li>IPsec</li> <li>PPTP</li></ul> <p>④HA</p> <ul style="list-style-type: none"><li>VRRP</li></ul>	

要旨	Syllabus
<p><b>■座学 - Vyatta を学ぼう！</b></p> <p>①Vyatta とは何か？ (概要)</p> <p>②Vyatta の構成と特徴</p> <p>③Vyatta の使い方</p> <p><b>■ハンズオン - 使ってみよう！</b></p> <p>①基本設定</p> <ul style="list-style-type: none"><li>アドレスの設定</li> <li>ルーティングの設定 (デフォルトルート・スタティックルート)</li> <li>アカウントの設定</li> <li>サービスの設定 (SSH・SNMP)</li> <li>DHCP サーバの設定</li> <li>PPPoE の設定</li></ul> <p>②外部のアクセスとセキュリティ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>NAT/NAPT(PortForwarding/Masquerade/Static NAT)</li> <li>ACL</li></ul> <p>②ダイナミックルーティング</p> <ul style="list-style-type: none"><li>OSPF</li></ul> <p>③VPN</p> <ul style="list-style-type: none"><li>IPsec</li> <li>PPTP</li></ul> <p>④HA</p> <ul style="list-style-type: none"><li>VRRP</li></ul>	

要旨	Syllabus
<p><b>■座学 - Vyatta を学ぼう！</b></p> <p>①Vyatta とは何か？ (概要)</p> <p>②Vyatta の構成と特徴</p> <p>③Vyatta の使い方</p> <p><b>■ハンズオン - 使ってみよう！</b></p> <p>①基本設定</p> <ul style="list-style-type: none"><li>アドレスの設定</li> <li>ルーティングの設定 (デフォルトルート・スタティックルート)</li> <li>アカウントの設定</li> <li>サービスの設定 (SSH・SNMP)</li> <li>DHCP サーバの設定</li> <li>PPPoE の設定</li></ul> <p>②外部のアクセスとセキュリティ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>NAT/NAPT(PortForwarding/Masquerade/Static NAT)</li> <li>ACL</li></ul> <p>②ダイナミックルーティング</p> <ul style="list-style-type: none"><li>OSPF</li></ul> <p>③VPN</p> <ul style="list-style-type: none"><li>IPsec</li> <li>PPTP</li></ul> <p>④HA</p> <ul style="list-style-type: none"><li>VRRP</li></ul>	

**当日持参頂く物：**

- 作業用 PC として、以下のスペックのノート PC をご持参下さい。
  - 100BASE-TX または 1000BASE-T の有線 LAN ポートを実装している物
  - SSH プロトコルを利用したりモート接続が可能な物 (Windows の場合は TeraTerm (http://sourceforge.jp/projects/ttssh2/) 等がインストールされていること)



NC-05	■環境／エネルギー／スマートグリッド
6月13日(水) 14:40~16:10	

## HEMSとスマートメーターの最新動向

What is Going On in HEMS and Smart Meters?

講師	Chair / Speakers
<p><b>Chair</b></p> <p><b>神竹 孝至</b> 株式会社 東芝 研究開発センター 首席技監</p>	
<p><b>Speakers</b></p> <p><b>松田 洋平</b> 経済産業省 商務情報局 情報経済課 課長補佐</p> <p><b>平原 茂利夫</b> エコネットコンソーシアム 運営委員長</p> <p><b>ステファン・キャスコ</b> ランディス・ギア プリンシパル・セキュリティ・エンジニア</p>	

概要	Overview
----	----------

東日本大震災による電力不足が続いています。政府は、需要側対策・供給側対策・中期の課題からなるエネルギー需給安定策を昨夏に発表し、その一環として本年2月にはスマートコミュニティ・アライアンス（JSCA）の場でスマートメーターの国内統一規格を定めました。その統一規格にはエコネットコンソーシアムの新規格が採用されています。

本セッションでは、経済産業省とエコネットコンソーシアムのキーマンから、「なぜスマートメータやHEMS (Home Energy Management System) が必要なのか」また「統一規格策定の意味は何なのか」を語ります。

さらに、スマートメーターで世界トップシェアのランディス・ギア社のキーマンから、世界におけるスマートメーターの市場動向および技術動向について説明します。



NC-06	■データセンター <ul style="list-style-type: none"><li>■ネットワークインフラ</li> <li>■環境／エネルギー／スマートグリッド</li></ul>
6月13日(水) 14:40~16:10	

## 省エネを実現するネットワーク技術解説

Energy Efficient Network Technologies

講師	Chair / Speakers
<p><b>Chair</b></p> <p><b>木下 剛</b> シスコシステムズ合同会社 専務執行役員 ボーダレスネットワーク事業統括</p>	
<p><b>Speakers</b></p> <p><b>野崎 洋介</b> NTT環境エネルギー研究所 エネルギーシステムプロジェクト プロジェクトマネージャ</p> <p><b>百瀬 剛</b> シスコシステムズ合同会社 テクノロジー&amp;リサーチセンター</p>	

概要	Overview
----	----------

省エネを実現するネットワーク関連技術の最新動向を、以下の切り口から解説します：

①データセンターにおける省エネ技術最新動向

「データセンター内の情報通信機器の増加」や「ラックあたりの高密度実装化」の進展から、データセンターの省電力化は喫緊の課題となっています。こうした中、「直流給電」は、交流・直流の変換ロスがなくエネルギー効率の高い点が注目され、これら膨大な数の情報通信機器への電力供給を現行の交流から直流に変更すれば、消費電力を大幅に削減できるものと期待されています。また、太陽光発電や蓄電池などの普及に伴い、宅内への適用の検討も進んでいます。このように、データセンターなどにおける省エネの鍵を握る技術として期待が広がっている直流給電を中心に、最新のデータセンターでの省エネ技術の全般について、技術標準化に向けた取り組みや、普及に向けた技術的な課題を解説します。

②グリーンネットワークの技術開発動向と標準化

オフィス内のイーサネットにおいては、すでにPOE・POE+、IEEE802.3azで標準化されたEnergy Efficient Ethernetなどの省エネ技術が実用化されています。これらにくわえて、LAN／WAN／データセンターのネットワーク全体に渡ってエネルギーの使用量を低減する仕組みとして、「Energy Aware Routingの研究」や、「電力モニター用無線センサーネットワークでのIPv6利用を可能とする6lowpan/RPLなどのプロトコルの開発」、「仮想化技術の応用」など、実用化を目指したグリーンネットワークの各種の技術開発も進んでいます。また、エネルギー管理制御の面においては、ネットワークを活用した提案として、IETFにおけるEMANやIEEE1888などの具体例が見られます。

以上のようなネットワーク技術による省エネ技術全般について、技術標準化に向けた取り組みや、普及に向けた技術的な課題を解説します。



NC-07	■セキュリティ
6月13日(水) 14:40~16:10	

## いまから始めるAPT(Advanced Persistent Threat)対策

～巷の対策の有効性を検証する～

Latest Countermeasures for Advanced Persistent Threat(APT) - Evaluation of Popular Ones' Effectiveness -

講師	Chair / Speakers
<p><b>Chair</b></p> <p><b>高橋 正和</b> 日本マイクロソフト株式会社 チーフセキュリティアドバイザー</p>	
<p><b>Speakers</b></p> <p><b>本川 祐治</b> 株式会社日立システムズ ネットワークサービス事業部 主管技師長</p> <p><b>相馬 基邦</b> 独立行政法人 情報処理推進機構 技術本部 セキュリティセンター 情報セキュリティ技術ラボラトリー</p>	

概要	Overview
----	----------

2011年には、国内外の防衛産業や政府機関、そして著名なセキュリティ企業が、サイバー攻撃を受けたことが明らかになりました。攻撃に利用されたAPT(Advanced Persistent Threat)や標的型と呼ばれる攻撃の危険性は数年前から知られており、昨年のINTEROP 2011でもこの問題を取り上げていますが、一連の事件を受け、政府や主要な業界団体において、新たな取り組みが進められるようになりました。本セッションでは、IPA（独立行政法人情報処理推進機構）より公開されている『『新しいタイプの攻撃』の対策に向けた設計・運用ガイド』を題材に、「APT対策製品を利用した対策」と「現状のネットワークで実施する、製品に頼らない対策」を紹介します。APT対策製品については、ガイドを執筆する際に行った検証結果に基づき、その効果と限界について議論します。そして、実際のネットワークにおいてAPT対策を実施する際に直面する課題と、その解決にむけた取り組みについて考察します。



NC-08	■クラウド／パーチャリゼーション <ul style="list-style-type: none"><li>／BigData</li></ul>
6月13日(水) 14:40~16:10	

## 売れるクラウド・買いたいクラウド

The Gap Between Client and Vendor Demands on the Cloud Computing

講師	Chair / Speakers
<p><b>Chair</b></p> <p><b>西村 元一</b> 日本アイ・ピー・エム システムズ・エンジニアリング株式会社 クライアントバリュー・クリーエション IIスペシャリスト</p>	
<p><b>Speakers</b></p> <p><b>山口 亮介</b> ニフティ株式会社 クラウド事業部クラウドビジネス部</p> <p><b>小島 英揮</b> アマゾンデータサービスジャパン株式会社 マーケティングマネージャー</p> <p><b>桑野 章弘</b> 株式会社サイバーエージェント アメーバ事業本部 プラットフォームディビジョン サービス開発部門グループ</p>	

<p><b>佐々木 庸平</b> 楽天株式会社 PaaS Development &amp; Operation Section, Architecture Committee Office, Development Unit Senior Application Developer</p> <p><b>清水 宣行</b> 日本アイ・ピー・エム システムズ・エンジニアリング株式会社 Webプラットフォーム IBMクラウド・マイスター</p>	
--	--

概要	Overview
----	----------

クラウド・コンピューティングの実用化が進められ、世の中に多くのクラウド・コンピューティング環境が提供されてきています。それら多くのクラウド環境の中には、「クラウド環境を提供する企業」と「クラウド環境を購入する企業」の大きく二つが存在しています。私たちのセッションでは、前者のクラウド環境を「売りたいクラウド」、後者のクラウド環境を「買いたいクラウド」として分類し、売りたい側では、「いま何ができるようになっていて、そしてどのような事をこれからしようとしているのか」、買いたい側では、「どのようなことをクラウドに求めているのか」について、両者それぞれに属するスピーカーから事例を紹介し議論します。また、議論の過程で生まれる両者間の共通点やギャップを探し出すことで、「買いたい側が欲しいものを、売りたい側はどのように提供できるのか？」の将来像に向けても議論します。



NC-09	■IPv4アドレス枯渇とIPv6移行
6月13日(水) 16:30~18:00	

## 本格稼動を開始するIPv6サービス基盤とWorld IPv6 Launch速報

Full Operated IPv6 Service Platform and Flash Reports on World IPv6 Launch

講師	Chair / Speakers
<p><b>Chair</b></p> <p><b>江崎 浩</b> 東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授</p>	
<p><b>Speakers</b></p> <p><b>Erik Kline</b> Google</p> <p><b>岩佐 功</b> 東日本電信電話株式会社 ブロードバンドサービス部 担当課長</p> <p><b>川村 聖一</b> NEC ビッグロープ株式会社</p> <p><b>山崎 裕司</b> BBIX 株式会社 技術本部 技術企画部 部長</p>	

概要	Overview
----	----------

2011年7月に、NTT東西のプレッツ光ネクスト上でPPPoE方式(案2)とIPoE方式(案4)によるIPv6インターネット接続が開始されました。ユーザーの獲得は今年から本格化し、いよいよIPv4/IPv6のDual Stack時代の幕開けとなります。ISOCからも、昨年の『World IPv6 Day』に続いて『World IPv6 Launch』がアナウンスされました。これまで日本はIPv6の先駆者として世界をリードしており、実際に普及率では世界第2位といわれています。しかしながらGoogleの指摘によると、品質については部分的に“世界でもっとも劣悪”とされています。そこで本カンファレンスでは、「この問題の実態と解決策」、今後日本のメジャープレーヤーが展開する「Dual Stack時代のソリューションの実装」などについて、議論します。



NC-10	■クラウド／パーチャリゼーション <ul style="list-style-type: none"><li>／BigData</li></ul>
6月13日(水) 16:30~18:00	

## オープンIaaS基盤の最新技術とビジネス動向

Latest Technologies and Business

Trend of Open Source IaaS Implementation

講師	Chair / Speakers
<p><b>Chair</b></p> <p><b>伊勢 幸一</b> 株式会社データホテル 情報環境技術研究室 執行役員</p>	
<p><b>Speakers</b></p> <p><b>安田 忠弘</b> クリエーションライン株式会社 代表取締役社長</p> <p><b>荒井 康宏</b> 一般社団法人クラウド利用促進機構(CUPA) 代表理事</p>	

概要	Overview
----	----------

国内ではすでに多くの事業者がIaaSサービスをリリースし、クラウドコンピューティング産業は今後ますます活発化していくことでしょう。中には、OpenStackやCloudStackといったオープンソーススペースのIaaS基盤や、Swiftなどのオープンストレージシステムを利用して商用サービスを展開している事業者も見受けられます。事業者によっては、オープンソースの実装を商用サービスとして導入する場合に、「メーカーによる保守が保証され難い」という懸念を抱く場合も少なくないでしょう。そこでこのセッションでは、オープンソース基盤によってクラウドサービスを展開している事例を元に、オープンソースを利用する場合の利点、問題や課題などを明確にし、さらにビジネスとして展開する際の優位性や留意点などについて議論します。



NC-11	■ネットワークインフラ
6月13日(水) 16:30~18:00	

## ルーティング最新動向

～IPv6, 4byte AS, PKIからセキュリティまで～

Leading-edge Trends in Routing - Routing Security and Operational Tips -

講師	Chair / Speakers
<p><b>Chair</b></p> <p><b>吉田 友哉</b> インターネットマルチフィード株式会社</p>	
<p><b>Speakers</b></p> <p><b>松崎 吉伸</b> 株式会社インターネットイニシアティブ</p> <p><b>河野 美也</b></p>	

概要	Overview
----	----------

インターネットの発展に伴い、BGPで交換される経路情報は年々指数関数的に増え、2012年中には、IPv4で40万経路に、IPv6で1万経路に到達する勢いです。ISP網のエッジなどではすでに処理限界に及ぶ非力なルータも多い中で、メモリ枯渇や装置上の性能限界、スケーラビリティの確保、またIPv4アドレスの枯渇に伴うIPv6ルーティングへの本格対応など、さまざまな状況に対処していく必要があります。さらに近年では、AS番号の枯渇に伴う「4byte」対応、誤った経路情報を排除可能なリソース証明書を用いた「リソースPKI技術」の導入検討など、新たな経路制御技術への対応も必要になっています。本セッションでは、これらの課題に代表される「経路制御技術」に関して、運用動向や実践的な対処方法を解説することを目的とし、とくに以下の内容について取り上げます：

- IPv4/IPv6 Routing動向
- 4オクテットAS動向
- RPKIなどの経路認証技術動向
- Locator/ID分離等の現在検討されている経路制御技術動向
- Convergence/Scalability技術動向
- Security動向とその対応策

このほか、IX上で見えるISPのBGP動向についても取り上げます。



NC-12	■クラウド／パーチャリゼーション <ul style="list-style-type: none"><li>／BigData</li></ul>
6月13日(水) 16:30~18:00	

## クラウド時代のスケーラビリティとアベイラビリティ技術

Technologies of Scalability and Availability on Cloud Computing Systems

講師	Chair / Speakers
<p><b>Chair</b></p> <p><b>野村 祐士</b> 株式会社富士通研究所 クラウドコンピューティング研究センター 主任研究員</p>	
<p><b>Speakers</b></p> <p><b>小島 英揮</b> アマゾン データ サービス ジャパン株式会社 マーケティングマネージャー</p> <p><b>鈴木 逸平</b> RightScale Advisory Board Member</p> <p><b>新井 雅晴</b> 富士通株式会社 クラウドプラットフォーム開発本部 マネージャ</p>	

概要	Overview
----	----------

クラウドの「スケーラビリティ」を活かしたシステム構築事例が増えており、いまや基幹業務やビジネス戦略、意思決定のためなど、重要なシステムにも適用の範囲が広がりはじめています。一方で、障害でクラウドが大規模に長時間停止する事例も報告され、クラウドを利用したシステムの「アベイラビリティ」も、設計や運用上の重要なポイントになってきました。スケーラビリティとアベイラビリティを考慮することは、機能および負荷の分散という観点から密接な関係にあるだけでなく、災害や障害時の対応という観点からも、設計・運用上の重要なテクノロジーになりつつあります。本セッションでは、スケーラビリティおよびアベイラビリティを高めるために、クラウドの設計・運用で考慮すべきポイントを、具体的な事例を用いてわかりやすく解説します。さらに、スケーラビリティおよびアベイラビリティを向上させる最新の技術に関しても、インフラ・データストア・アプリケーションを含めて議論します。

NC-13	■IPv4アドレス枯渇とIPv6移行
<p>6月14日(木) 12:50~14:20</p>	

## IPv6 Hot Topics 2012

講師	Chair / Speakers
<p><b>Chair</b></p> <p>江崎 浩 東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授</p>	
<p><b>Speakers</b></p> <p>西村 一弘 さくらインターネット株式会社 基盤戦略部 バックボーンチーム リーダー</p> <p>西田 晴彦 NTTアドバンステクノロジー株式会社 IPネットワークプロダクツビジネスユニット 担当部長</p> <p>佐藤 良 株式会社コナミデジタルエンタテインメント スタジオ1Tセンター 技術サポートグループ</p> <p>渡邊 圭太 アカマイ・テクノロジーズ合同会社 技術本部 ソリューションズ・エンジニアリング部 ソリューション・エンジニア</p>	

概要	Overview
<p>2012年6月6日のIPv6 Lauchを経て、Google・Yahoo！・FacebookなどのハイパージャイアントがIPv6の恒久的サービスの実施を計画しています。このような中、我が国においても、ISPIによるIPv6への対応だけではなく、アプリケーションプロバイダやデータセンター、あるいは、企業ネットなどでIPv6の導入・利用を本格化する必要があります。また、我が国のインターネットインフラは、世界最高品質のブロードバンド環境を提供してはいますが、一方で非常に複雑です。とくに、アプリケーションプロバイダにとっては、さまざまな技術的な問題を把握し解決していかなければなりません。そこで本セッションでは、データセンター、アプリケーション、および、この環境構築に必要なキーコンポーネントについて、IPv6への対応方針と現状の問題点を明らかにします。</p>	

|--|

NC-14	■データセンター
<p>6月14日(木) 12:50~14:20</p>	

## なぜ、石狩市は 大規模・最先端データセンタの誘致を企画し、成功に導けたのか？

講師	Chair / Speaker
<p><b>Chair</b></p> <p>田中 邦裕 日本データセンター協会 理事</p>	
<p><b>Speaker</b></p> <p>田岡 克介 北海道石狩市 市長</p>	

概要	Overview
<p>外気冷房、直流給電やモジュール構造の導入など、高い省エネと運用効率を実現するための最先端技術を導入したデータセンターが、いよいよ運用を開始しました。関東地区に約7割が集中する日本のデータセンターの地方展開のためには、数多くの問題を解決する必要があることが広く認識されていました。データセンターの地方展開への要求は、東日本大震災を契機に、関東での直下型大震災への危機管理という観点からも急速に高まってきています。本セッションでは、本格稼働を開始した石狩データセンターの誘致と構築を成功に導くに至った経緯と自治体としての具体的施策や市の優位性等を、力強いリーダーシップで知られる市長自身が解説します。</p>	

|--|

NC-15	■セキュリティ
<p>6月14日(木) 12:50~14:20</p>	

## 有害コンテンツ(児童ポルノ)ブロッキングの最新状況

Latest Action of Blocking Harmful Content such as Child Pornography

講師	Chair / Speakers
<p><b>Chair</b></p> <p>三膳 孝通 株式会社インターネットイニシアティブ</p>	
<p><b>Speakers</b></p> <p>森里 紀之 総務省 総合通信基盤局 電気通信事業部 消費行政課 課長補佐</p> <p>吉田 奨 一般社団法人インターネットコンテンツセーフティ協会 事務局長</p> <p>北村 和広 NTTコミュニケーションズ株式会社</p>	

概要	Overview
<p>昨年3月に、児童ポルノ掲載アドレスリストの作成管理団体である『一般社団法人インターネットコンテンツセーフティ協会』が、民間事業者による自主的な団体として設立されました。またその翌月から、同協会により管理・配布されるアドレスリストに基づいて、インターネットサービスプロバイダや検索サービス事業者、フィルタリングサービス事業者において、児童ポルノコンテンツへのブロッキングなどが実施され始めました。同協会に加入する事業者数も、発足当初の21社から65社(3月31日現在)に増え、とくに最近ではNTTドコモやソフトバンクモバイルなどの携帯電話の大型キャリアも加入するなど、スマートフォンも含めたモバイル端末へのブロッキングも、いよいよ本格的に実施される運びとなりました。また、総務省において『児童ポルノサイトのブロッキングに関する実証実験』もスタートし、より精度の高い児童ポルノサイトブロッキング技術の確立を目指した活動も活発化しています。本コンファレンスでは、昨年に引き続き、インターネットにおける児童ポルノ流通防止対策の最新状況を、以下のアジェンダを中心に議論を深めて行きます。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>各国における児童ポルノ流通防止対策の実施状況</li> <li>日本における児童ポルノ流通防止対策の方向性</li> <li>総務省実証実験によるブロッキング技術手法の紹介と今後の方向性</li></ol>	

|--|

NC-16	■ネットワークインフラ
<p>6月14日(木) 14:40~16:10</p>	

## DNSホットトピック2012

～ISPのDNS運用最新動向～

DNS Hot Topics in 2012 - Trends on ISPs' DNS Operations -

講師	Chair / Speakers
<p><b>Chair</b></p> <p>松崎 吉伸 株式会社インターネットイニシアティブ シニアエンジニア</p>	
<p><b>Speakers</b></p> <p>佐々木 達典 KDDI株式会社 運用本部/サーバーオペレーションセンター 課長補佐</p> <p>西岡 孟朗 NTTコミュニケーションズ株式会社 カスタマサービス部</p>	

概要	Overview
<p>DNSはインターネットの重要なサービスであり、インターネットで動作する多くのアプリケーションは、DNSによる名前解決に実質的に依存しています。DNSはユーザが必要とするサービスにたどり着くためのいわば制御系であり、サービスプロバイダがユーザに品質の良いサービスを提供するためにも、DNSを安定かつ適切に運用することがますます重要となってきています。DNSをより安全に利用したいという観点から、DNSSECの導入が検討されてきました。実際、2011年には.jp ccTLDでもDNSSECが導入され、DNSSECを活用できる環境が整ってきています。また、DNSを利用して「コンテンツの最適な配信制御する手法」や「アクセスを制御する手法」も利用されるようになってきています。本セッションでは、ISPが運用するDNSに関する最新状況を報告するとともに、新技術の導入や運用といった課題を整理します。</p>	

|--|

NC-17	■データセンター
<p>6月14日(木) 14:40~16:10</p>	

### 省エネ型データセンターの実際

～運用実績をもとに、その効果を検証する～

The Fact of Energy-saving Data Centers - Performance Verification of Actual Operation -

講師	Chair / Speakers
<p><b>Chair</b></p> <p>田中 邦裕 さくらインターネット株式会社 代表取締役 社長</p>	
<p><b>Speakers</b></p> <p>岡田 良介 日本ラッド株式会社 クラウド事業部 常務執行役</p> <p>久保 力 株式会社インターネットイニシアティブ サービス本部 データセンターサービス部</p>	

概要	Overview
<p>最近、省エネ型データセンターが相次いで開設され、注目を浴びています。データセンターにおいては、電気代が原価の多くを占め、省エネに取り組む効果は非常に高いと言えます。しかしながら、そのアプローチばかりが注目され、実際の効果について知る機会はあまりありません。そのため、効果が高いのは理解できても、実際に導入するには至らないのが現状ではないでしょうか？そこで本セッションでは、稼働中の省エネ型データセンターの運用実績をもとに「どれくらい省エネが図れるのか」や「どのようなメリット・デメリットがあるのか」について解説します。また、「通常のデータセンターとの違い」や「実際に運用して困ったこと」などについても紹介します。</p>	

|--|

|--|

|--|

|--|

NC-18	■セキュリティ
<p>6月14日(木) 14:40~16:10</p>	

## 同時多発的DDoS攻撃への対応と即応体制の整備

Synchronized DDoS Attack: Protection and Quick Response Plan

講師	Speaker
<p><b>Chair</b></p> <p>齋藤 衛 株式会社インターネットイニシアティブ TelecomISAC Japan 運営委員、DoS即応WG主査</p>	
<p><b>Speakers</b></p> <p>根岸 征史 株式会社インターネットイニシアティブ セキュリティ情報統括室</p> <p>高橋 郁夫 BLT法律事務所 所長 弁護士</p> <p>湯口 高司 NTTコミュニケーションズ株式会社 カスタマサービス部 企画部門 TelecomISAC Japan 運営委員、DoS即応WG副主査</p>	

概要	Overview
<p>近年継続的に発生している日本国内の主要Webサイトに対する攻撃をはじめ、集団「Anonymous」に代表されるHacktivism(社会的・政治的な主張・抗議などのための攻撃活動)による行為など、DDoS攻撃は現在でも日常的に発生しています。このセッションでは、2011年度に発生した実際のDDoS攻撃の様子を紹介するとともに、DDoS攻撃に対するISPの協調対応の実現に向けた活動について紹介し、今後のDDoS攻撃対策について議論を行います。</p>	

|--|

|--|

|--|

NC-19	■ネットワークインフラ
<p>6月14日(木) 16:30~18:00</p>	

## Winny開発者が語る P2P 商用化への挑戦

講師	Chair / Speakers
<p><b>Chair</b></p> <p>砂原 秀樹 慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 教授</p>	
<p><b>Speakers</b></p> <p>金子 勇 株式会社Skeed 社外取締役</p> <p>壇 俊光 弁護士</p>	

概要	Overview
<p>2011年12月19日に最高裁の決定によりWinny事件の無罪が確定しました。Winnyは、開発された時点で、大規模化への対応、エンドユーザーに提供される品質向上のためのコンテンツキャッシュアーキテクチャー、多様なコンテンツを管理するためのファイルフィルタリング技術など、現在のP2PシステムならびにCDNシステムで適用されている、多くの先進的な技術を含んでいました。本講演では、これからのP2P技術の進化の方向性ならびに商用化に向けた取り組みを、Winnyの開発者の視点で議論します。</p>	

|--|

|--|

|--|

|--|

|--|

|--|

NC-20	■クラウド/バーチャリゼーション /BigData
<p>6月14日(木) 16:30~18:00</p>	

IT部門はBYOとVDIにどう向き合い、どう対応すべきか？～コンシューマライゼーション、BYO(私物解禁)の波は、止められない～

How Should IT Department Deal with BYO/VDI? - Nobody Can Stop the Wave of IT Consumerization & BYO(Bring Your Own) -

講師	Chair / Speakers
<p><b>Chair</b></p> <p>榎本 瑞樹 日商エレクトロニクス株式会社 マーケティング本部 部長</p>	
<p><b>Speakers</b></p> <p>村上 慎一 シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社 エンタープライズ営業本部 テクノロジーエバンジェリスト</p> <p>木村 滋 シスコシステムズ合同会社 コンサルティング・システムズ・エンジニア</p>	

概要	Overview
<p>スマートフォンやタブレットなどの端末の多様化、爆発的に普及するソーシャルメディアなど、コンシューマ市場で培った製品やサービスを企業ITに活用していこうという流れが活発化しています。また、企業の従業員が自分の好きな端末を業務に活用しようという「BYO(Bring Your Own)」の流れも加速しつつあり、デスクトップ仮想化(VDI)ソリューションとの連携により、新たなワークスタイルが生まれつつあります。これらの変革は、単なる利便性の向上に留まらず、自由な発想でビジネスと向き合うことによる生産性の向上と同時に、企業側のクライアント環境投資コスト削減効果をもたらすことが期待されています。本セッションでは、企業のクライアント・コンピューティング環境における米国市場のトレンドを踏まえ、BYOを実現する上での課題を整理、ソリューションの一例として、BYOとVDI環境を最適化するネットワーク、セキュリティ面の最新技術動向を解説します。さらには、今後のクライアント・コンピューティング環境の方向性やワークスタイルの未来像を、業界を代表するパネラーによって討議します。</p>	

NC-21	■データセンター
6月14日(木) 16:30~18:00	

## 対決:イーサネット・ファブリック

Head-to-head Competition among Leading Ethernet Fabric Vendors

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>本林 良太</b> NEC ビジネスインキュベーション本部 マネージャー
<b>Speakers</b>	<p>プロケード コミュニケーションズシステムズ株式会社 データセンタテクノロジー本部 部長</p> <p>及川 尚 シスコスシステムズ合同会社 データセンター・パーチャライゼーション事業 プロダクトマネージャー</p> <p>瀧川 慎一 ジュニパーネットワークス株式会社 技術統括本部 シニアテクニカル・コンサルタント</p>

概要	Overview
----	----------

いわゆる「イーサネット・ファブリック」は、各社からソリューションが出揃い、さらに機能の拡充が進んでいる段階です。一般には優位性として、(1)レイヤ2マルチパス対策によるSTPの排除、(2)コントロールプレーンのスイッチ間共有によるパーチャルシャーシ化・ファブリック構成の自律性、(3)トポロジーの柔軟性、(4)ファブリックの自律回復による耐障害性・高可用性、(5)既存イーサネットネットワークからの継承性、(6)DCB(Data Center Bridging)やFCoE(Fibre Channel over Ethernet)によるストレージとの接続性などがうたわれています。

しかし、ベンダ固有の訴求点については不明確になりがちです。また、“マルチ”“パーチャル”“自律”に起因する、トラブルシュートの複雑化も懸念されます。そこで本セッションでは、各ベンダの唱えるソリューションについて、どう工夫しどう差異化を図ろうとしているのか？どう運用性を向上させようとしているのか？などについて、横断的に議論します。

|--|--|

NC-22	■IPv4アドレス枯渇とIPv6移行
6月15日(金) 10:20~11:50	

|--|--|

## IPv4アドレスの枯渇に伴うアドレス移転の実態と今後の動向

Current Status of IPv4 Address Transfer

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>仲西 亮子</b> IPv4アドレス枯渇対応タスクフォース 三井情報株式会社
<b>Speakers</b>	<p>田中 邦裕 さくらインターネット株式会社</p> <p>川村 聖一 N E C ビッグロープ株式会社</p> <p>川端 宏生 社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター IP事業部</p> <p>風間 勇人 サイバーエリアリサーチ株式会社</p>

概要	Overview
----	----------

IPv4アドレスのIANA中央在庫の枯渇に続いて、地域インターネットレジストリ(RIR)の通常在庫の枯渇も近づいています。アジア太平洋地域を管轄するAPNICでは、すでに通常在庫は枯渇し、最後の/8ブロックからのIPv4アドレスの割り振りが、分配ポリシーに基づいて始まりました。いまやアドレスの割り振り・割り当てに際しては、事実上の制限が出てきています。この影響は大きく、大量にIPアドレスを消費するクラウドサービスなどでは、サービスの提供延期などの問題も一部で起きています。このような環境の中、IPアドレスを資源として頼るサービス提供事業者では、IPv6への移行を一定の視野に入れつつも、事業継続の観点からIPv4アドレスをどうにかして手に入れ、サービスを続けていかざるを得ません。もはや、IPv4アドレスが事業継続のためのカギとなっています。

本セッションでは、枯渇状況下にあるIPv4アドレスの移転の実態に迫り、今後の動向を探っていきます。

|--|--|

NC-23	■ネットワークインフラ
6月15日(金) 10:20~11:50	

## インターネットトラフィック最新状況

Internet Traffic Nowadays

講師	Chair / Speaker
<b>Chair</b>	<b>永見 健一</b> 株式会社インテック
<b>Speakers</b>	<p>熊木 健二 KDDI株式会社 IPトランスポート技術部 IPコア技術グループ 課長/グループリーダ</p> <p>福田 健介 国立情報学研究所 准教授</p> <p>福田 健平 NTTコミュニケーションズ株式会社</p>

概要	Overview
----	----------

日本ではFTTHに代表されるブロードバンドインターネットの利用者数が3,500万を超え、企業だけでなく一般家庭においても、インターネットは欠かせない情報通信インフラとなっています。また、スマートフォンの普及によりモバイルユーザのトラフィック量も増大しており、2011年9月には、月間延べトラフィック量は、下り4万5千テラバイトとなり、1年前の2倍になっています。これらのトラフィック量への対応として、モバイルキャリアにおけるWi-Fiを使ったトラフィックオフロードなど、さまざまな方法が考えられています。さらに、2012年は6月には、World IPv6 Launchとして、Google、Facebookなどの主要ウェブサイトが恒久的にIPv6対応される予定となっており、トラフィックの変化が起きる可能性があります。このようなトラフィックパターンの変化を客観的に把握するために、海外および国内のトラフィック量やトラフィック品質が測定されています。

本セッションでは、このような変わりつつある現状のインターネットのトラフィックパターンを、(1)国内の固定トラフィック、(2)国内のモバイルトラフィック、(3)海外のトラフィックについて紹介します。さらに、6月6日に実施されるWorld IPv6 Launchによるトラフィックを速報として紹介します。

|--|--|

NC-24	■クラウド／パーチャライゼーション／BigData
6月15日(金) 10:20~11:50	

|--|--|

## ビッグデータ：活用事例から近未来を展望する

BigData: Visions for the Near Future Taken from Past Cases

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>門林 雄基</b> 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 准教授
<b>Speakers</b>	<p>李 民浩 さくらインターネット株式会社 基盤戦略部バックボーンチーム</p> <p>伊勢 幸一 株式会社データホテル 情報環境技術研究室 執行役員 CTA室長</p> <p>武田 浩一 日本アイ・ピー・エム株式会社 東京基礎研究所 技術理事</p>

概要	Overview
----	----------

今日、インターネットやイントラネット上に日々蓄積される膨大なデータを分析・処理する「ビッグデータ」が注目を集めています。ビッグデータは、マーケティング分析の用途にとどまらず、私たちの生活の向上に貢献するさまざまなアプリケーションを可能とする新技術です。

本セッションでは、実際のビッグデータの処理、および、それをどのように価値に変えることができるのかを、事例を中心に紹介します。まず、即効性のある等身大のビッグデータ技術として、さくらインターネットにおける異常トラフィック検知への活用事例を紹介します。さらに、昨年米国TVクイズ番組に挑戦するという、極めて高度な知的処理を実現したIBMのWatsonプロジェクトをとりあげ、今後のビックデータ処理についてデータ分析の観点から討議します。

|--|--|

|--|--|

NC-25	■ネットワークインフラ
6月15日(金) 12:50~14:20	

## DNSへの脅威とその対策

The Threat against DNS and Its Countermeasure

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>石田 慶樹</b> 日本インターネットエクステンジ株式会社 代表取締役社長
<b>Speakers</b>	<p>山本 功司 株式会社インターネットイニシアティブ プロダクト本部基盤プロダクト開発部 部長</p> <p>松崎 吉伸 株式会社インターネットイニシアティブ シニアエンジニア</p> <p>坂口 智哉 株式会社日本レジストリサービス システム部</p>

概要	Overview
----	----------

昨年、ブラジルにて大規模なISPへのDNSボイズニング攻撃が発生しました。ユーザがGmail、YouTube、Facebookなどポピュラーなサイトへアクセスしようすると、悪意のあるサイトへ誘導され個人情報を要求されたり、TrojanBankといった危険度の高いマルウェアに感染させられたりした、重大な事件でした。また、悪意をもったドメイン名が上位のDNSから消去されても、幽霊ドメインとしてキャッシュサーバに残し続けられる手法も発見されました。

本セッションはDNS、とくにDNSキャッシュサーバへの攻撃に関して、その脅威を理解すると同時に、技術的対応策や具体的な対策プロセスについて議論します。

|--|--|

|--|--|

|--|--|

|--|--|

NC-26	■ネットワークインフラ
6月15日(金) 12:50~14:20	

|--|--|

## インターネット アジアビジネスの最前線

～ケーブル、ネット、データセンター、クラウド～

Forefront of Internet Business in Asia  
- Cable, Internet, Data Center, Cloud -

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>石井 秀雄</b> PACNET Global Singapore PTE LTD. Product Strategy and Management Vice President
<b>Speakers</b>	<p>古田 敬 エクイニクス・ジャパン株式会社 代表取締役</p> <p>伊藤 幸夫 NIT コミュニケーションズ株式会社 サービス基盤部 部長</p> <p>鹿野 浩司 KDDI 株式会社</p>

概要	Overview
----	----------

情報通信システムは、インターネットの登場とともに経験した業界の変革以来の変革を、2つの理由で経験しようとしています。それは、「クラウドコンピューティングに牽引されるデータセンターを核にしたシステム構成の進化」と、「これまで日欧米の3極で構成されていた主要ビジネス領域が、アジア全域を含むものへと変化したこと」です。アジアの国々を広帯域に連結するためのケーブルシステムの敷設と、データセンターの建設、さらに、クラウドサービスと仮想化技術の導入は、企業ネットワークの設計運用を根本的に変革しつつあります。

本セッションでは、ケーブルからクラウドサービスまでについて、アジアおよびグローバル市場でビジネス展開している先端企業の最新状況と戦略を議論します。

|--|--|

|--|--|

NC-27	■クラウド／パーチャライゼーション／BigData
6月15日(金) 12:50~14:20	

## クラウドセキュリティ標準化動向(1)

Cloud Security Standards (1)

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>門林 雄基</b> 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 准教授
<b>Speakers</b>	<p>勝見 勉 独立行政法人 情報処理推進機構 情報セキュリティ分析ラボラトリー 主任研究員</p> <p>松本 安英 株式会社富士通研究所 クラウドコンピューティング研究センター 主任研究員</p> <p>宗藤 誠治 日本アイ・ピー・エム株式会社 東京基礎研究所 アドバイザリー・リサーチャー</p>

概要	Overview
----	----------

今日、クラウド環境の利活用が急速に進んでおり、オープンイノベーションや企業間コラボレーションにおける新たなプラットフォームとなっています。その一方で、セキュリティについて一定の懸念があることも事実です。

本セッションでは、クラウドセキュリティについて、世界の第一線で国際標準化に携わっている識者から講演します。クラウドセキュリティに関する世界の標準化動向を俯瞰できる2セッション構成となっています。

(1) では特に、クラウド管理に関する標準化動向に注目し、CSA(Cloud Security Alliance )、DMTF(Distributed Management Task Force)、TCG(Trusted Computing Group)の3団体について取り上げます。

|--|--|

|--|--|

|--|--|

|--|--|

NC-28	■クラウド／パーチャライゼーション／BigData
6月15日(金) 14:40~16:10	

|--|--|

## ファブリック技術とSDNオーケストレーションの最新動向

Leading Edge of Fabric Technologies and the SDN Orchestration

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>伊勢 幸一</b> 株式会社データホテル 情報環境技術研究室 執行役員
<b>Speakers</b>	<p>小宮 崇博 プロケード コミュニケーションズシステムズ株式会社 データセンタテクノロジー本部 部長</p> <p>榎本 瑞樹 日商エレクトロニクス株式会社 マーケティング本部 部長</p>

概要	Overview
----	----------

今、SPBやTRILL、MC-LAGなどのファブリック技術がクラウドコンピューティングのネットワーク基盤として注目されています。しかし、IaaS上で実施される仮想マシンのプロビジョニングやマイグレーションに対し、これらファブリックネットワークのトポロジーやVLAN構成をどのように追従させ、動的に再構築するかという事が運用における重要な課題となっています。最近の傾向として、この様なファブリック上におけるIaaS基盤の運用はOpenFlowなどによる仮想ネットワークを併用して実現されますが、仮想ネットワークの運用にはSDNによるオーケストレーション技術が必要不可欠です。

本セッションは、まずベースとなるファブリック技術のプロトコルや実装を比較整理し、ユースケースや事例を踏まえ、仮想ネットワークとSDNを利用したクラウドネットワーク基盤としての具体的な適用方法、その最新動向と今後の展望を示します。

|--|--|

|--|--|

# NC-29

■ ネットワークインフラ

6月15日(金) 14:40~16:10

## 新たなネットワーク仮想化技術: L3 NWへのオーバーレイ方式

New Network Virtualization Technologies Using L3 Overlay

講師 Chair / Speakers

Chair **今井 俊宏** シスコシステムズ合同会社  
テクノロジー&リサーチセンター シニアマネージャー

Speakers **大久保 修一** さくらインターネット株式会社 研究所 上級研究員  
**中本 滋之** シスコシステムズ合同会社  
ソリューション・システム・エンジニアリング  
システムズエンジニア

### 概要 Overview

仮想データセンターからなるクラウド環境は、L2ネットワークをベースに構成する必要があることから、現状、テナント間の分離技術としてはVLANが使用されています。しかしVLANのIDは、4096セグメントまでしか対応できない制限があり、それが拡張性・柔軟性における課題として広く認識されてきました。そのため現在、「L2-VPN技術の応用」「OpenFlow」「L3ネットワークへのオーバーレイ方式」など、さまざまな方式・技術がこの課題の解決に向けて検討されています。

そこで本セッションでは、仮想データセンターのネットワークアーキテクチャを整理するとともに、IETF NVO3 (Network Virtualization over L3) で議論が進む「VXLAN」「NVGRE」などのL3ネットワークへのオーバーレイ方式・技術に焦点をあて、普及にむけた課題と、今後のネットワーク設計や運用に役立つ情報を、以下の切り口から整理します:

- ①仮想データセンターのネットワークアーキテクチャ
- ②L3ネットワークへのオーバーレイ方式解説
- ③サービス視点からの技術的課題や期待の整理

# NC-30

■ クラウド/パーチャライゼーション  
/BigData

6月15日(金) 14:40~16:10

## クラウドセキュリティ標準化動向(2)

Cloud Security Standards (2)

講師 Chair / Speakers

Chair **門林 雄基** 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 准教授

Speakers **崎村 夏彦** 株式会社野村総合研究所  
DIソリューション事業部 上席研究員  
**山崎 哲** 工学院大学

### 概要 Overview

今日、クラウド環境の利活用が急速に進んでおり、オープンイノベーションや企業間コラボレーションにおける新たなプラットフォームとなっています。その一方で、セキュリティについて一定の懸念があることも事実です。

本セッションでは、クラウドセキュリティについて、世界の第一線で国際標準化に携わっている識者から講演します。クラウドセキュリティに関する世界の標準化動向を俯瞰できる2セッション構成となっています。

(2)では特に、クラウド時代のアイデンティティ管理およびセキュリティマネジメントに関する標準化動向に注目し、OASIS(Organization for the Advancement of Structured Information Standards), ITU-T SG17, ISO/IEC JTC 1 SC 27 の3団体について取り上げます。

※本セッションは(1)(2)にわかれています。できれば(1)(2)を連続して受講して下さい。

# 7/19 THU 開催決定!

東京ミッドタウン

## スマートデバイス ジャパンセミナー

<http://www.f2ff.jp/sdjs/>

## Business Intelligence Conference 2012

ビジネスインテリジェンス・コンファレンス

<http://www.f2ff.jp/bic/>

## 第3回 今求められる セキュリティ対策セミナー

<http://www.f2ff.jp/iss/>

## Social Enterprise Conference 2012

ソーシャル・エンタープライズ・カンファレンス

<http://www.f2ff.jp/sec/>



# IMC TOKYO 2012

Interop Media Convergence

## ROOM 201B

P30 参照

# コンファレンスプログラムガイド

スマートTV、ソーシャル連携、最新映像技術やシステムなど、  
デジタルメディア関係者必見のプログラム

6月13日(水)	6月14日(木)	6月15日(金)
<b>IMC-01</b> <b>「NOTTV」番組編成からシステムの裏側まで ～世界初のモバイルスマートTVサービスを一挙紹介～(1)</b> スピーカー 小牧 次郎/株式会社mmbi 常務取締役 大矢 智之/株式会社mmbi 取締役 技術統括部 セネラルマネージャー 鈴木 崇之/株式会社mmbi 技術統括部シニアマネージャー	<b>IMC-04</b> <b>ポストデジタル化時代のコンテンツ流通政策の 最新動向とスマートTVの可能性</b> スピーカー 松本 和人/総務省 情報流通行政局情報通信作品振興課 課長補佐 元橋 圭昭/日本放送協会 経営企画局(デジタル推進) 専任部長	<b>IMC-07</b> <b>進化するラジオエンターテイメントモデルへの 挑戦を続けるradiko.jp</b> スピーカー 青木 貴博/株式会社radiko 業務推進室長
<b>IMC-02</b> <b>「NOTTV」番組編成からシステムの裏側まで ～世界初のモバイルスマートTVサービスを一挙紹介～(2)</b> スピーカー 北之園 展/株式会社mmbi システム統括部 シニアマネージャー 西澤 伸一/株式会社mmbi 技術統括部制作技術担当 技術統括部シニアマネージャー 袴田 直人/株式会社ジャパン・モバイルキャスト 運用技術部 オペレーションセンタ センター長	<b>IMC-05</b> <b>Broadcast Continuity～災害・防災と放送通信の役割: 情報空白化地帯解消のための「エリア」への対応～</b> チェア 吉井 勇/株式会社ニューメディア 月刊ニューメディア編集部 編集長 スピーカー 谷崎 康彦/総務省大臣官房企画課長 村上 正浩/工科大学 建築学部まちづくり学科 准教授 博士(工学) 香取 啓志/株式会社radiko 配信技術室 室長 兼 メディアセンター長 本間 康文/株式会社TBSテレビ 技術局 担当局長 野口 高志/東日本復興支援コンソーシアム事務局 (株式会社ユースマー代表取締役)	<b>IMC-08</b> <b>映像符号化における高画質への取り組み (MPEG2～HEVC)</b> スピーカー 池田 敏之/NEC 放送映像事業部 第三技術部 マネージャー
<b>IMC-03</b> <b>放送XソーシャルXマルチスクリーン:新・放送サービス最前線</b> スピーカー 前編 岡村 智之/株式会社フジテレビジョン 技術開発局 専任局長 後編 安藤 聖泰/日本テレビ放送網株式会社 編成局メディアデザインセンター メディアマネジメント部	<b>IMC-06</b> <b>全録化・スマート化時代で見え始めた次世代の “テレビ的存在”</b> スピーカー 本田 雅一/フリーランスジャーナリスト	<b>IMC-09</b> <b>実践者が語る電子書籍の将来展望 ～何が壊れ、何が生まれようとしているのか～</b> チェア 岩浪 剛太/株式会社インフォシティ 代表取締役 スピーカー 萩野 正昭/株式会社ポイジャー 代表取締役社長 津田 大介/ジャーナリスト

(敬称略)

※本ガイドに記載の情報は2012年5月25日現在のものであり、内容は予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

# IMC-01

6月13日(水) 12:50~14:20

## 「NOTTV」番組編成からシステムの裏側まで

～世界初のモバイルスマートTVサービスを一挙紹介～ (1)

講師 Speakers

Speakers **小牧 次郎** 株式会社mmbi 常務取締役  
**大矢 智之** 株式会社mmbi 取締役 技術統括部 セネラルマネージャー  
**鈴木 崇之** 株式会社mmbi 技術統括部 シニアマネージャー

### 概要 Overview

4月1日、世界初のモバイルスマートTVである、NOTTVが開局しました。ライブ、SNS連携番組や蓄積型のサービスなど、本格的な放送・通信連携サービスの形となります。また、NOTTVのサービスを支えるシステムには収録から送出までファイルベースシステムやXiを使った中継技術などをはじめ、随所に最先端技術が導入されています。今回は2セッションにわたり、各部門の担当者をお招きし、NOTTVのシステム面から番組サービス面において紹介していきます。

# IMC-02

6月13日(水) 14:40~16:10

## 「NOTTV」番組編成からシステムの裏側まで

～世界初のモバイルスマートTVサービスを一挙紹介～ (2)

講師 Speakers

Speakers **北之園 展** 株式会社mmbi システム統括部 シニアマネージャー  
**西澤 伸一** 株式会社mmbi  
技術統括部制作技術担当 技術統括部シニアマネージャー  
**袴田 直人** 株式会社ジャパン・モバイルキャスト  
運用技術部 オペレーションセンタ センター長

### 概要 Overview

4月1日、世界初のモバイルスマートTVである、NOTTVが開局しました。ライブ、SNS連携番組や蓄積型のサービスなど、本格的な放送・通信連携サービスの形となります。また、NOTTVのサービスを支えるシステムには収録から送出までファイルベースシステムやXiを使った中継技術などをはじめ、随所に最先端技術が導入されています。今回は2セッションにわたり、各部門の担当者をお招きし、NOTTVのシステム面から番組サービス面において紹介していきます。

# IMC-03

6月13日(水) 16:30~18:00

## 放送XソーシャルXマルチスクリーン：新・放送サービス最前線

講師	Speakers
<b>Speakers</b> <p><b>前編</b> <b>岡村 智之</b> 株式会社フジテレビジョン 技術開発局 専任局長</p> <p><b>後編</b> <b>安藤 聖泰</b> 日本テレビ放送網株式会社 編成局メディアデザインセンター メディアマネジメント部</p>	
概要	Overview

**前編** マルチスクリーン時代の放送同期型コンテンツ提供～テレコアプリとサービス～

マルチスクリーン時代にテレビを一緒に見てくれるテレビコンパニオンサービスが注目を浴びている。既存のテレビとタブレット、スマホで実現できる放送同期型の「テレコアプリ」について、そのサービスと将来を語る。

**後編** 放送とFacebookが連携した新サービス「JoiNTV(ジョインティービー)～放送と通信連携。ソーシャルテレビ視聴の新しい方向性～

JoiNTV は、従来の地上デジタルテレビをインターネットに接続するだけで、テレビ画面と同じ番組を見ているFacebook上の友人が表示されたり、気になったシーンでリモコンボタンを押すだけで情報がシェアされたりクリッピングできる新しいソーシャルテレビ視聴サービスである。ソーシャル視聴と言えばハッシュ タグによるTwitter連携を示すことが多い。一部の人間が情報発信し多くの視聴者が番組を視聴する時代から、誰もが自由に発言できるように変化したはずだが、実は発言しているのは全視聴者からみると、ほんのわずかな人であり、一部の情報発信者と大多数の情報閲覧者という構図自体は変わらない。ただ公の場で情報発信しない人々も自身を中心とした小さなコミュニティでは発言しコミュニケーションを取る。JoiNTVが目指したのは、その小さなコミュニティを大量に作ることにある。Facebookと連携したのもそのためである。

講師	Speaker

# IMC-04

6月14日(木) 12:50~14:20

講師	Speaker

## ポストデジタル化時代のコンテンツ流通政策の最新動向とスマートTVの可能性

講師	Speakers
<b>Speakers</b> <p><b>松本 和人</b> 総務省 情報流通行政局情報通信作品振興課 課長補佐</p> <p><b>元橋 圭哉</b> 日本放送協会 経営企画局(デジタル推進) 専任部長</p>	
概要	Overview

2012年3月31日、いよいよ東北地方(の被災三県で)もアナログ放送が終了し、ポストデジタル化時代へ突入しました。また、スマートフォンやタブレットなど一人のユーザーが複数の「画面」を保有し、電波やIPネットワークなど様々な流通経路を通して多様なコンテンツを活用するフェーズに入っています。

本セッションでは、技術進展や情報通信ネットワークの完全デジタル化等に対応した今後のコンテンツ政策の方向性、コンテンツの重点戦略の概要と今後の展開と昨今新しいテレビの視聴体験モデルとして注目度が高いスマートTVに関する取り組みについてご紹介していきます。

第一部:ポストデジタル化/マルチデバイス化時代におけるコンテンツ流通政策について
第二部:NHKにおけるスマートTVにおける取り組みについて(仮)

講師	Speaker

講師	Speaker

# IMC-05

6月14日(木) 14:40~16:10

## Broadcast Continuity

～災害・防災と放送通信の役割：

情報空白化地帯解消のための「エリア」への対応～

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b> <p><b>吉井 勇</b> 株式会社ニューメディア 月刊ニューメディア編集部 編集長</p>	
<b>Speakers</b> <p><b>谷脇 康彦</b> 総務省大臣官房企画課長</p> <p><b>村上 正浩</b> 工学院大学 建築学部まちづくり学科 准教授 博士(工学)</p> <p><b>香取 啓志</b> 株式会社radiko 配信技術室 室長 兼 メディアセンター長</p> <p><b>本間 康文</b> 慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究所 研究員</p> <p><b>野口 高志</b> 株式会社TBSテレビ 技術局 担当局長</p> <p><b>東日本復興支援コンソーシアム事務局</b> (株式会社ヨーズマ 代表取締役)</p>	
概要	Overview

2011年3月11日に起こった東日本大震災において、放送や通信サービスが人々のコミュニケーションや情報収集経路として大きな役割を果たした一方で、制度、技術、情報の正確性など、数々の新たな課題や役割も浮き上がってきました。例えば前回の震災時に情報過疎化した地域は数日間状況把握が困難となったことから、情報空白化を未然に防ぐための「地域:エリア」にもとづいた社会情報インフラをどの様に構築し、放送と通信が補完係を持てるかということがあります。また、メディアが情報を伝える・共有するという役割を担う一方で、放送通信インフラを防災活動にどのように活用できるか？という可能性にも期待が高まります。今回のセッションでは、災害が起きる前段階の備えと災害が起きた後の対応としてどのようなことが出来るか？そして広いエリアの放送・通信サービスがカバーしきれない部分を放送通信技術が今後どのような対応が求められるか？などといった今後の防災における放送通信の役割を再整理し、事例、技術、法制度について議論していきます。

講師	Speaker

# IMC-06

6月14日(木) 16:30~18:00

講師	Speaker

## 全録化・スマート化時代で見え始めた次世代の“テレビ的存在”

講師	Speaker
<b>Speaker</b> <p><b>本田 雅一</b> フリーランスジャーナリスト</p>	
概要	Overview

“スマートTV”という言葉の普及が先行する中、スマートTVの実態はあまり知られていません。スマートTVとは何なのか？そのマインドセットを合わせ、従来のインターネットに接続されたテレビとの違いが何なのか、ビジネスモデル、ユーザーモデルの変化は何なのか。技術、マーケティング、利用者視線、あらゆる視点でのスマートテレビについて考えてみましょう。

一方で話題になっているのが全チャンネル録画。いわゆる“全録”機能です。こちらもまた、ネットワーク機能と融合し、テレビ放送の体験を大きく変えようとしています。しかし全録という切り口からもまた、テレビ業界全体のビジネスモデルやマインドセットを変えていく必要が出てきます。

デジタル化されたコンテンツ流通の世界観、ルールが変化する中、世の中で何が起きているのか。“テレビ”ではなく、“テレビ的な存在”が何に移り変わっていくのかを模索し、新しいビジネスの方向を指し示す。

講師	Speaker

講師	Speaker

# IMC-07

6月15日(金) 10:20~11:50

## 進化するラジオエンターテイメントモデルへの挑戦を続けるradiko.jp

講師	Speaker
<b>Speaker</b> <p><b>青木 貴博</b> 株式会社radiko 業務推進室長</p>	
概要	Overview

2010年3月15日、在京7局・在阪6局にて実用化試験配信を開始してから約2年、参加放送局は65局、サービスエリアは全47都道府県へと拡大(2012年4月2日現在)、月間ユニークユーザー数も780万人(2012年1月)に達し、当初の目的であります、難聴取エリアの解消、ラジオの聴取機会拡大、若年層対策へ、徐々に貢献しはじめています。また、今後はSYNCRO AD(シンクロアド)と呼ばれる番組と連動した広告や販促につなぐといったビジネスモデル面にも挑戦をしていきます。今後ますます加速していくであろう、スマートフォンやタブレット端末の普及に伴うワンユーザーマルチデバイス化の動きなどで、ユーザーの視聴体験も大きく変わってきています。そのような環境変化においてネットと連携したラジオエンターテイメントモデルの現状と今後の取り組みをお話いたします。

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

# IMC-08

6月15日(金) 12:50~14:20

## 映像符号化における高画質への取り組み(MPEG2～HEVC)

Approach to developing high-quality video codec : from MPEG-2 to HEVC

講師	Speaker
<b>Speaker</b> <p><b>池田 敏之</b> NEC 放送映像事業部 第三技術部 マネージャー</p>	
概要	Overview

2011年7月の地デジ移行に象徴されるように、近年あらゆる映像配信の場においてデジタル化、素材のハイビジョン化が急速に進んでおり、その膨大な情報量を効率良く圧縮伝送するコーデックは必要不可欠なコンポーネントとなっている。そのコーデックの圧縮方式はMPEG-2からH.264/AVC方式、更に2013年FDIS(Final DraftInternational Standard)予定のHEVC方式と、従来比2倍の圧縮性能で進歩している。これにより更なる高画質化や2k、4kなどの超高精細データの高効率圧縮化が可能となり、今後更にサービス拡大や高度化が進むものと考えられる。当社はこれまで高画質、高効率符号化性能を備えたMPEG-2およびH.264/AVCコーデック製品開発を行ってきた。ここではこれまでの製品開発事例および、今後のHEVCを含めた製品ラインナップ拡充への取り組みについて紹介する。

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

# IMC-09

6月15日(金) 14:40~16:10

## 実践者が語る電子書籍の将来展望

～何が壊れ、何が生まれようとしているのか～

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b> <p><b>岩浪 剛太</b> 株式会社インフォシティ 代表取締役</p>	
<b>Speakers</b> <p><b>萩野 正昭</b> 株式会社 ボイジャー 代表取締役</p> <p><b>津田 大介</b> ジャーナリスト</p>	
概要	Overview

電子書籍分野はApple、Google、Amazonなどの動向によって一気にその様相を変えつつあります。市場拡大に先んじて電子書籍論議も活発に行われていますが、このセミナーでは電子書籍のこれまでの経緯から将来展望まで、「実践者」であるボイジャー萩野正昭とジャーリスト津田大介の両氏とともに、最新EPUB電子書籍ソリューションのデモも含めて、リアルな電子書籍論議を行います。

また、ソーシャルメディア等が一般化するに至り、完全に「ユーザーの時代」が到来しています。その中で、今、何が壊れ、何が生まれようとしているのか？海外の巨大プラットフォームからの攻勢で日本のビジネスはどうなっていくのか？

電子書籍市場の変化から予見されるメディア全体の未来についても論議を行います。

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

講師	Speaker

# LBJ-09

6月15日(金) 14:40~16:10

## 本格化するWi-Fiベースの屋内ロケーションサービスビジネス

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>砂原 秀樹</b> 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 教授
<b>Speakers</b>	<b>木下 泰三</b> 株式会社日立製作所 情報・通信システム社 ワイヤレスインフォ統括本部 統括本部長
	<b>那須 俊宗</b> マルティスープ株式会社 代表取締役
	<b>塩野崎 敦</b> クウジツ株式会社 取締役CTO

概要	Overview
<p>無線 LAN の基地局からの信号を活用した屋内ロケーションサービスは、スマートフォン等にも基本機能として取り入れられ基盤機能としての準備が整っています。これらを活用し、さまざまなロケーションサービスビジネスが広く展開が始まっており、今後ロケーションサービスビジネスの中核をなすと考えられます。本セッションでは、WiFi ベースの屋内ロケーションサービスの現状をまとめるとともに、戦略的なサービス基盤の展開、さらには WiFi ベースのロケーションサービスを中核としたサービスビジネスの動向について展望します。</p>	



ロケーションビジネス ジャパン 実行委員会
実行委員長
<b>神武 直彦</b> 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 准教授
実行委員
<b>柴崎 亮介</b> 東京大学 空間情報科学研究センター長・教授
<b>砂原 秀樹</b> 慶應義塾大学院 メディアデザイン研究科 教授
<b>春山 真一郎</b> 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授
<b>坂下 哲也</b> 一般財団法人 日本情報経済社会推進協会 電子情報利活用推進部 次長
<b>石井 真</b> 測位衛星技術株式会社 取締役
<b>塩野崎 敦</b> クウジツ株式会社 取締役 CTO

# LBJ-07

6月15日(金) 10:20~11:50

## ロケーションベースドサービス最前線

～ Beyond the Checkin ～

講師	Speaker
<b>Chair</b>	<b>関 治之</b> Georepublic Japan CEO ジオメディアサミット主催
<b>Speakers</b>	<b>福島 啓吾</b> 東京急行電鉄株式会社 都市開発事業本部 事業統括部 企画開発部 企画担当
	<b>安藤 拓道</b> Compath Me Inc. CEO
	<b>鈴木 まなみ</b> フリーランス Webプロデューサー

概要	Overview
<p>近年、スマートフォンとソーシャルメディアの普及により、位置情報メディアのビジネスモデルは目覚ましい変化を続けています。ロケーション情報を利用したメディアは数えきれないほど登場しておりますが、特に「チェックイン」の概念の登場は業界にインパクトを与えました。しかしながらチェックインサービスも普及度ではまだ今ひとつの状況です。可能性は大きいがキラーアプリケーションが無いという状況の中、次は何が来るのでしょうか。本セッションでは Beyond the Checkin と題して、ロケーションベースドサービスの最前線で活躍するメンバーがプレゼンテーションいたします。</p>	



# LBJ-08

6月13日(水) 12:50~14:20

## ビジネスユースとしての地図コンテンツの選び方 How to Choose the Map Service for Business

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>古橋 大地</b> マップコンシェルジュ株式会社 代表取締役 一般社団法人オープンストリートマップ・ファウンデーション・ジャパン 副理事長
<b>Speakers</b>	<b>村田 岳彦</b> ヤフー株式会社 メディア事業統括本部 地域サービス本部 本部長

概要	Overview
<p>Google Mapsが登場してから7年、地図情報はなくてはならないオンラインサービスのひとつにまで成長しました。店舗情報や公共施設検索、乗り換え案内やルート 検索、データマイニングやエンターテイメントなど、さまざまな用途で応用されています。とくに、昨今のスマートフォンやタブレット隆盛となった状況でさらに顕著となっており、次の目的地への案内を紙に印刷しなくても、モバイル端末上で完結するのが当たり前になってきました。一方でビジネスとして地図を利用 する場合に、それまで商用目的でも無料で提供されてきたGoogle Maps APIの一部有料化にともない、ビジネスユースに最適な地図API及びコンテンツの選択肢が広がりがつづあります。とくに、OpenStreetMap(OSM)の採用は2012年に入ってから顕著であり、2月には大手チェックインサービスのFoursquare、3月には AppleやYahoo!JAPANが相次いでビジネスユースとしてOSMの利用を開始しています。本セッションではその動向と今後の地図コンテンツの方向性について意見を交わします。</p>	



# LBJ-05

6月14日(木) 14:40~16:10

## 新しいアイデアの発想とそのビジネス展開

～ AR (Augmented Reality) などの新しいアイデアからのビジネス展開～

講師	Chair / Speaker
<b>Chair</b>	<b>砂原 秀樹</b> 慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 教授
<b>Speaker</b>	<b>暦本 純一</b> 東京大学大学院情報学環 教授

概要	Overview
<p>位置情報、Virtual Reality, Augmented Reality など、デジタル情報基盤が進化するにつれ、新しいアイデアが生み出されそれに基づくビジネスが展開されていきます。このセッションでは、このような新しいアイデアを発想するところからスタートし、それを社会に適用可能なサービスとしてビジネス展開していくまでを考察します。その実例として、AR だけでなく非常に早い時期に WiFi ロケーションサービスをビジネスとして推し進めている東京大学大学院情報学環暦本純一教授が、新しい発想を生み出し実際のサービスとして社会へ適用していくための考え方と今後の展開について紹介します。</p>	



# LBJ-06

6月14日(木) 16:30~18:00

## IMES: 衛星測位による屋内測位技術 Indoor Location by IMES based on Satellite Navigation Technology

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>神武 直彦</b> 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科准教授
<b>Speakers</b>	<b>小暮 聡</b> 独立行政法人 宇宙航空研究開発機構(JAXA) 宇宙利用ミッション本部衛星利用推進センター ミッションマネージャ
	<b>石井 真</b> 測位衛星技術株式会社 取締役
	<b>寺西 孝一郎</b> ソニー株式会社 半導体事業本部 アナログLSI事業部 コミュニケーションLSI製品部 システム設計マネジャー
	<b>藍原 雅一</b> 自治医科大学 地域医療学センター地域医療情報学部門 講師

概要	Overview
<p>携帯電話やスマートフォンにおいて、GPS測位は標準機能となり、O2O(オンライン・ツー・オフライン)といった位置情報を基軸としたバーチャルとリアルを融合した市場が急速に拡大しています。また、いままで米国のGPSのみだった衛星測位システムも日本の準天頂衛星が打ち上げられ、さらに揚州のガリレオやロシアのGLONASS,中国のコンパスなどの衛星測位システムも稼働してくるといった状況で、ますます衛星測位の利便性や性能が向上することになるでしょう。一方、衛星測位の唯一の欠点とも言える屋内測位は、大きな課題としてクローズアップされており、日本からGPS信号を使って、そのまま屋内でも測位できるIMES (Indoor Messaging System)が開発され、実用段階に入ってきました。そこで本セッションでは、衛星測位の現状を紹介し、衛星測位の屋内測位技術であるIMES技術の紹介していきます。屋内測位における特徴、課題を送信機、受信機を当事者からのプレゼンテーションといった形でリレーし、最後にIMES測位を重要な位置情報として利用する医療現場からの話につなげます。</p>	

# LBJ-03

6月13日(水) 16:30~18:00

## ビッグデータが拓くロケーションベースマーケティング

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>鈴木 良介</b> 株式会社野村総合研究所 ICT・メディアコンサルティング部 主任コンサルタント
<b>Speakers</b>	<b>丸田 哲也</b> 株式会社野村総合研究所 社会システムコンサルティング部 上級コンサルタント
	<b>本田 謙</b> フリークアウト 代表取締役社長

概要	Overview
<p>本セッションでは、フィジカル領域におけるビッグデータ活用の可能性を、マーケティング分野の先鋭事例分析を通じて紹介します。ビッグデータの活用はGoogle, Amazon, Facebookに代表されるインターネットサービスを中心に進展してきました。今後は、サイバー・フィジカルの融合サービスの登場や、サイバー領域でつちかった手法をフィジカル領域へと転用することが予想されます。フィジカル領域では事象をデータに変換するための負荷が大きく、そのことがデータ活用上の障壁となっていました。近年のセンサの高度化・低価格化や、通信機能をそなえた機器の増加により、その障壁は取り払われつつあるためです。</p>	

本セッションでは、すでに実現されている『インターネット広告配信の高度化』、『店舗におけるリアルタイムマーケティング』、『先鋭的なロケーションベース ドサービス』、『位置データを用いたプライシング高度化』などを紹介し、フィジカル領域におけるビッグデータの中心である位置データの活用可能性を再確認します。

LBJ-04
6月14日(木) 12:50~14:20

## 実用化をむかえる可視光通信をもちいた位置サービス Location-based Services Using Visible Light Communication

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>春山 真一郎</b> 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授
<b>Speakers</b>	<b>近藤 陽介</b> パナソニック株式会社 エコソリユーションズ社 まるごとソリューションズ本部 参事
	<b>飯塚 宣男</b> カシオ計算機株式会社 研究開発センター 室長
	<b>中島 円</b> 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 春山研究室/技術センター 後期博士課程 国際航業株式会社

概要	Overview
<p>近年、可視光LED は、照明器具、交通信号機、ディスプレイなどの光源として急速に普及しつつあります。とくにLED照明は現在急速に普及しつつありその光に位置情報を乗せることで屋内外のユビキタスな位置ビーコンとしてもちいることができます。パナソニック株式会社エコソリユーションズ社の近藤陽介氏からは、屋内のLED照明を用いたナビゲーション等のサービスについてご紹介します。また、可視光はスマートフォンのカメラでも検出することができるため、撮影された画像にLED光源に乗った情報を重ねることができます。カシオ計算機株式会社の飯塚宣男様からは、スマートフォンのカメラを用いた新しい応用についてご紹介します。さらに、慶應義塾大学の 中島円氏からは、屋内の経路案内を特に必要としている視覚障害者のためのナビゲーションシステム、および屋内の詳細な経路やフロアプランの作成方法についてご紹介します。</p>	

# コンファレンスプログラムガイド

「最新技術」と、「サービスと表現」、「プライバシー」など、広がるロケーションビジネスへの期待と懸念を共有し、すべての解決策を一望するプログラム

6月13日(水)	6月14日(木)	6月15日(金)
<p><b>LBJ-01</b></p> <p><b>ロケーションビジネスにおけるプライバシーの考え方</b></p> <p>12:50 ↓ 14:20</p> <p><b>Chair</b> 坂下 哲也／一般財団法人 日本情報経済社会推進協会(JIPDEC) 電子情報利活用推進部 次長</p> <p><b>スピーカー</b> 高崎 晴夫／株式会社KDDI総研 取締役 クロサカ タツヤ／株式会社 代表取締役</p>	<p><b>LBJ-04</b></p> <p><b>実用化をむかえる可視光通信をもちいた位置サービス</b></p> <p>12:50 ↓ 14:20</p> <p><b>Chair</b> 香山 真一郎／慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授</p> <p><b>スピーカー</b> 近藤 陽介／パナソニック株式会社 エコソリューションズ社 まるごとソリューションズ本部 参事 飯塚 宜男／カシオ計算機株式会社 研究開発センター 室長 中島 円／慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 香山研究室/技術センター 後期博士課程 国際航業株式会社</p>	<p><b>LBJ-07</b></p> <p><b>ロケーションベースドサービス最前線～Beyond the Checkin～</b></p> <p>10:20 ↓ 11:50</p> <p><b>Chair</b> 関 治之／Georepublic Japan CEO ジオメディアサミット主催</p> <p><b>スピーカー</b> 福島 啓吾／東京急行電鉄株式会社 都市開発事業本部 事業統括部 企画開発部 企画担当 安藤 拓道／Compath Me Inc. CEO 鈴木 まなみ／フリーランス Webプロデューサー</p>
<p><b>LBJ-02</b></p> <p><b>ロケーションビジネス基盤としての位置情報表現と標準化</b></p> <p>14:40 ↓ 16:10</p> <p><b>Chair</b> 坂下 哲也／一般財団法人 日本情報経済社会推進協会(JIPDEC) 電子情報利活用推進部 次長</p> <p><b>スピーカー</b> 高橋 陽一／インディゴ株式会社 シームレス空間基盤研究開発センターセンター長 足達 嘉信／セコム I S 研究所 ビルディングテクノロジーグループ 主務研究員</p>	<p><b>LBJ-05</b></p> <p><b>新しいアイデアの発想とそのビジネス展開～AR (Augmented Reality)などの新しいアイデアからのビジネス展開～</b></p> <p>14:40 ↓ 16:10</p> <p><b>Chair</b> 砂原 秀樹／慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 教授</p> <p><b>スピーカー</b> 藤本 純一／東京大学大学院情報学環 教授</p>	<p><b>LBJ-08</b></p> <p><b>ビジネスユースとしての地図コンテンツの選び方</b></p> <p>12:50 ↓ 14:20</p> <p><b>Chair</b> 古橋 大地／マップコンシェルジュ株式会社 代表取締役 一般社団法人オープンストリートマップ・ファウンデーション・ジャパン 副理事長</p> <p><b>スピーカー</b> 村田 岳彦／ヤフー株式会社 メディア事業統括本部 地域サービス本部 本部長</p>
<p><b>LBJ-03</b></p> <p><b>ビッグデータが拓くロケーションベースマーケティング</b></p> <p>16:30 ↓ 18:00</p> <p><b>Chair</b> 鈴木 良介／株式会社野村総合研究所 ICT・メディアコンサルティング部 主任コンサルタント</p> <p><b>スピーカー</b> 丸田 哲也／株式会社野村総合研究所 社会システムコンサルティング部 上級コンサルタント 本田 謙／フリーアウト 代表取締役社長</p>	<p><b>LBJ-06</b></p> <p><b>IMES:衛星測位による屋内測位技術</b></p> <p>16:30 ↓ 18:00</p> <p><b>Chair</b> 神武 直彦／慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 准教授</p> <p><b>スピーカー</b> 小暮 聡／独立行政法人 宇宙航空研究開発機構(JAXA) 宇宙利用ミッション本部衛星利用推進センター ミッションマネージャ 石井 真／測位衛星技術株式会社 取締役 寺西 孝一郎／ソニー株式会社 半導体事業本部 アナログLSI事業部 コミュニケーションLSI製品システム設計マネージャー 藍原 雅一／自治医科大学 地域医療学センター地域医療情報学部門 講師</p>	<p><b>LBJ-09</b></p> <p><b>本格化するWi-Fiベースの屋内ロケーションサービスビジネス</b></p> <p>14:40 ↓ 16:10</p> <p><b>Chair</b> 砂原 秀樹／慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 教授</p> <p><b>スピーカー</b> 木下 泰三／株式会社日立製作所 情報・通信システム社 ワイヤレスインフォ統括本部 統括本部長 那須 俊宗／マルティスブ株式会社 代表取締役 塩野崎 敦／クワジット株式会社 取締役CTO</p>

(敬称略)

※本ガイドに記載の情報は 2012 年 5 月 25 日現在のものであり、内容は予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

## LBJ-02

6月13日(水) 14:40~16:10

### ロケーションビジネス基盤としての位置情報表現と標準化

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	坂下 哲也 一般財団法人 日本情報経済社会推進協会(JIPDEC) 電子情報利活用推進部 次長
<b>Speakers</b>	高橋 陽一 インディゴ株式会社 シームレス空間基盤研究開発センター センター長 足達 嘉信 セコム I S 研究所 ビルディングテクノロジーグループ 主務研究員

**概要** Overview

東日本大震災では、阪神淡路大震災当時にくらべて、地図データそのものに関する課題は見られませんでした。一方で、避難所の位置情報が機械判読可能な状態で提供されていなかったことなど、位置コンテンツに関する課題が顕在化しました。欧米でも、LOD (Linked Open Data) など機械判読可能な形で情報を提供し、それらを融合することで、あらたな付加価値を創造しようとする動きが顕著になってきています。測位についても、わが国独自の準天頂衛星システムの整備や屋内測位方式の多様化など、その標準化はサービス推進の上で課題になってきています。最近では屋内空間サービスの隆盛に伴い、それらの標準化にむけた活動が活発化してきています。このセッションでは、『位置情報を取り巻く様々な標準化の動向』を紹介し、『我が国サービスの事業展開の方向性』について議論します。

## LBJ-01

6月13日(水) 12:50~14:20

### ロケーションビジネスにおけるプライバシーの考え方

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	坂下 哲也 一般財団法人 日本情報経済社会推進協会(JIPDEC) 電子情報利活用推進部 次長
<b>Speakers</b>	高崎 晴夫 株式会社KDDI総研 取締役 クロサカ タツヤ 株式会社 代表取締役

**概要** Overview

モバイル機器へのGPS標準搭載が進み、チェックインなど位置情報を発信するコストが大幅に低下しました。それにともなって、ユーザの位置情報を利用した LBSも増加しています。一方、スマートフォンなど常に位置情報を発信するデバイスの登場によって、プライバシーに配慮した取扱いが求められています。ビッグデータの時代をむかえ、国際的にも、OECDでは集積データの中の価値が見直され、パーソナル情報の経済価値などの検討が始まり、EUではデータ保護規制が、米国でもプライバシー権利章典などが発表されるなど、制度的な枠組みにも変化が見られるようになりました。このセッションでは、『パーソナル情報を中心とした国際的な制度的枠組み』と、『利用の在り方』について、事例を交えつつ紹介するとともに、利用と保護の両側面から今後のあるべき姿について考察します。

## SDJ-05

6月15日(金) 12:50~14:20

### スマートデバイスを活かす近距離無線通信の現状

Near Field Communication and Related Technologies That Empower Smart Devices

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	丹 康雄 北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授
<b>Speakers</b>	岩崎 潤 ソニー株式会社 事業戦略部門 T推進室 企画推進担当部長 山木 秀哉 NFC Forum Board Director 日本電気株式会社 パーソナルソリューション事業開発本部 マネージャ

**概要** Overview

数cmといった、ごく近距離にある機器間のみで通信が可能となる近距離無線通信技術は、すでに日本国内ではSuicaやお財布ケータイといった形で広く利用されていますが、近年のスマートホン、タブレット端末などのスマートデバイスの普及とともに、再び大きく注目を集めつつあります。とくに、Android 2.3以降でのNFC(Near Field Communication)のサポートや、NFCの搭載で複数の非接触規格を一台で扱うことのできるリーダライタの出現は、新たな展開を予想させます。また一方で、数百Mbpsに及ぶ高速な通信を実現し、画像データなどのやりとりをスムーズに行えるような近距離無線通信技術も実用化されています。本セッションでは、他の無線通信技術との比較における近距離無線通信の位置づけなど、概要を述べた後、高速転送を実現するTransferJetの概要と現状、さらに、NFC Forum)における活動状況について解説します。

## SDJ-06

6月15日(金) 14:40~16:10

### スマートフォンのセキュリティ～利用と管理の立場から～

Smartphone Security - Guides for Use and Management -

講師	Speaker
<b>Speaker</b>	竹森 敬祐 株式会社KDDI研究所 ネットワークセキュリティグループ

**概要** Overview

スマートフォンとは、PCむけ汎用OSの上に、利便性の高いアプリケーションを実行させるための豊富なAPIが揃った携帯端末です。誰もが安心して利用できるように、さまざまな安全機構を備えており、通常の利用シーンにおいてはマルウェア感染などのセキュリティ事故は生じません。しかし、「連絡先や位置情報を勝手に抜き取り、請求書に記載して高額な振り込みを強要する詐欺」や、「シャッター音を消すカメラによる盗撮」など、特有の犯罪も発生しています。不安を煽る記事や誤った認識が拡がる中で、購入を躊躇する個人や法人は少なくなく、正しい知識に基づく利用を心掛けることが重要です。本講演では、スマートフォンとPCの違いを知り、そのセキュリティ機構を正しく理解した上で、事故に遭遇しないための利用時の注意点について整理します。また、業務の効率化のために法人への導入を検討するシステム部門むけに、スマートフォンを安全に管理するための注意点についても整理します。これにより、安心して利活用いただくための普及・啓発に繋がることを期待します。

## SDJ-03

6月14日(木) 16:30~18:00

### IoT、M2Mを実現するユビキタスID技術

Ubiquitous ID Technologies for IoT and M2M

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	越塚 登 東京大学大学院情報学環 教授
<b>Speakers</b>	湧田 雄基 東京大学大学院情報学環 特任助教 峯岸 康史 YRPユビキタス・ネットワークング研究所 ユビキタス事業室 部長

**概要** Overview

近年、Internet of things (IoT)、Machine to machine (M2M) 通信技術、また中国では物聯網、感知中国といった、いわゆるUbiquitous Computing、Ubiquitous Network技術の新たな展開が盛んに行なわれています。これらの取組みでは、実世界と計算機上の仮想世界とを有機的に結合させることで、新しい情報通信サービスを確立することが志向されています。そこで本セッションでは、我が国を中心に取り組みられてきたユビキタスID技術を中核とした、IoT、M2Mといった分野へのアプローチを紹介し、その実現に不可欠である新しい情報社会基盤にありかたや、標準化に関しても言及します。

## SDJ-04

6月15日(金) 10:20~11:50

### 無線LAN最新技術動向：ギガビット無線LANとSP Wi-Fiオフロード

Wireless LAN Recent Technology Trend: Gigabit Wireless LAN & SP Wi-Fi Offload

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	今井 俊宏 シスコシステムズ合同会社 テクノロジー&リサーチセンター シニアマネージャー
<b>Speakers</b>	小林 佳和 NEC 企業ネットワーク開発本部 シニアエキスパート 人見 高史 シスコシステムズ合同会社 AP CTO オフィス JPN シニアマネージャー

**概要** Overview

2011年の末あたりから、IEEE802.11ac/adに準拠した無線LANチップが各社から発表され、超高速無線LANの実用化がいよいよ間近に迫ってきました。ギガビットを超えるデータ伝送速度があれば、無線LANの通信速度がボトルネックになることはなく、高画質映像などの大容量のデータでも、僅かな時間でやり取りができるようになります。たとえばスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末では、この超高速化による利便性の向上が、大きく期待できます。一方、モバイル端末からのデータトラフィックが携帯通信網を圧迫し続けていることから、携帯通信事業者は、公衆無線LANサービスの展開に力を入れています。すなわち、一部のトラフィックを無線LANホットスポットにオフロードさせ、負荷を回避するためです。その際にベースとなる技術としては、Wi-Fi Allianceが取組んでいるHot Spot 2.0や、3GPPで検討が進むLTE時代を見据えたオフロード手法などが挙げられています。そこで本セッションでは、IEEE802.11およびWi-Fi Allianceで議論が進む無線LANの最新技術動向を整理するとともに、ギガビット無線LAN技術とSP (サービスプロバイダ) によるWi-Fiオフロードに焦点をあて、今後のネットワーク設計や運用に役立つ情報を提供します。

スマートデバイス企業活動への期待、  
次のビジネスを広げるモバイル・ワイヤレス最新技術紹介まで。

6月14日(木)		6月15日(金)	
<b>SDJ-01</b>	<b>スマートデバイス企業内徹底活用術</b>	<b>SDJ-04</b>	<b>無線LAN最新技術動向： ギガビット無線LANとSP Wi-Fiオフロード</b>
12:50 ↓ 14:20	<b>チェア</b> 砂原 秀樹／慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 教授 <b>スピーカー</b> 中山 五輪男／ソフトバンクモバイル株式会社 ビジネス推進統括部 シニアエヴァンジェリスト 原田 圭悟／KDDI株式会社 スマートソリューション部 スマートソリューション部長	10:20 ↓ 11:50	<b>チェア</b> 今井 俊宏／シスコシステムズ合同会社 テクノロジー&リサーチセンター シニアマネージャー <b>スピーカー</b> 小林 佳和／NEC 企業ネットワーク開発本部 シニアエキスパート 人見 高史／シスコシステムズ合同会社 AP CTOオフィスJPN シニアマネージャー
<b>SDJ-02</b>	<b>モバイルデバイス管理(MDM)最新技術動向</b>	<b>SDJ-05</b>	<b>スマートデバイスを活かす近距離無線通信の現状</b>
14:40 ↓ 16:10	<b>チェア</b> 山口 英／奈良先端科学技術大学院大学 教授 <b>スピーカー</b> 柳下 幹生／MobileIron, Inc. 販売担当副社長, APJ 北村 裕司／サイバートラスト株式会社 最高技術責任者 関 徳男／NEC クラウドデバイス事業部 エキスパート 平居 透／クオリティソフト株式会社 取締役CTO	12:50 ↓ 14:20	<b>チェア</b> 丹 康雄／北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授 <b>スピーカー</b> 岩崎 潤／ソニー株式会社 事業戦略部門 TJ推進室 企画推進担当部長 山本 秀哉／NFC Forum Board Director 日本電気株式会社 パーソナルソリューション事業開発本部 マネージャ
<b>SDJ-03</b>	<b>IoT、M2Mを実現するユビキタスID技術</b>	<b>SDJ-06</b>	<b>スマートフォンのセキュリティ ～利用と管理の立場から～</b>
16:30 ↓ 18:00	<b>チェア</b> 越塚 登／東京大学大学院情報学環 教授 <b>スピーカー</b> 湯田 雄基／東京大学大学院情報学環 特任助教 峯岸 康史／YRPユビキタス・ネットワークング研究所 ユビキタス事業室 部長	14:40 ↓ 16:10	<b>スピーカー</b> 竹森 敬祐／株式会社KDDI研究所 ネットワークセキュリティグループ

(敬称略)

※本ガイドに記載の情報は2012年5月25日現在のものであり、内容は予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

## SDJ-02

6月14日(金)14:40~16:10

### モバイルデバイス管理(MDM)最新技術動向

The Trend of Mobile Divide Management  
with Top MDM Vendors in the World

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b> 山口 英	奈良先端科学技術大学院大学 教授
<b>Speakers</b> 柳下 幹生	MobileIron, Inc. 販売担当副社長, APJ
北村 裕司	サイバートラスト株式会社 最高技術責任者
関 徳男	NEC クラウドデバイス事業部 エキスパート
平居 透	クオリティソフト株式会社 取締役CTO

#### 概要 Overview

スマートデバイスを業務で活用する企業が増加しており、ビジネスにおけるiPhone・iPad、Androidデバイスの活用(社員への配布、個人所有 デバイスの有効活用など)は、「業務効率の改善」「顧客満足度の向上」「売上の拡大」「ワークスタイルの変革」などに大いに有効な手段となっています。しかしながら、「紛失・盗難などの情報漏洩リスクの管理」「アプリケーションの利用制限」「アクセス制限」「カメラなどの機能制限」など、システム管理者にとっては悩みが多く、スマートデバイスをビジネスで安全に活用するためには、利便性を確保しつつセキュリティを保つ対策が不可欠となります。本セッションでは、業界をリードするMDM(モバイルデバイス管理)ベンダーにより、スマートデバイスの活用に伴うセキュリティ対策で必須と考えられるMDMの最新技術動向について、「安全な通信環境の実現」「利用者や利用端末の識別」「モバイルデバイスの管理機能」などのさまざまな切り口から、今後のネットワークシステム設計や運用に役立つ情報を提供します。

## SDJ-01

6月14日(木)12:50~14:20

### スマートデバイス企業内徹底活用術

Benefits of Enterprise Use of Smart Devices

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b> 砂原 秀樹	慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 教授
<b>Speakers</b> 中山 五輪男	ソフトバンクモバイル株式会社 ビジネス推進統括部 シニアエヴァンジェリスト
原田 圭悟	KDDI株式会社 スマートソリューション部 スマートソリューション部長

#### 概要 Overview

企業におけるスマートデバイスの導入が、さまざまな業種業態で加速しています。たとえば内線電話・メール・グループウェアといった基本的な「コミュニケーションツール」としての役割から始まって、訪問・店舗での商品検索・プレゼンといった「営業支援」、在庫・進捗管理などの「業務システム」、あるいは「教育・トレーニング」として用いられている例もあります。実際これらの導入後の企業においては、ワークスタイルの改善が図られ、売上げの向上や業務の改善が実現できています。いまやスマートデバイスは、企業の成長のための大きなファクターとして欠かせないものとなってきています。そこで本セッションでは、企業において業務改革を推進している方の参考となるよう、効果の高いスマートデバイスの導入実事例について詳しく紹介します。

## DSJ-09

6月15日(金)14:40~16:10

### 明日のデジタルサイネージ ロケーション、o2oの可能性

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b> 川村 行治	株式会社インセクトマイクロエージェンシー
<b>Speakers</b> 跡部 徹	株式会社空気読み 代表取締役
小磯 敦	楽天株式会社 編成部 副部長
長津 孝輔	株式会社カドベヤ 取締役

#### 概要 Overview

デジタルサイネージは動く看板として活用される以外に何が考えられるのでしょうか。街とのつながり、個人との関係、新しいコマスの形や連携。地域とのつながり。web業界を中心に活躍している論客が、webやアプリケーション業界で起こっているムーブメントを踏まえ、フォーマットされた固定概念を融かす 様々な視点で明日のサイネージ活用を議論をします。

## デジタルサイネージ ジャパン 2012 実行委員会

#### 実行委員長

中村 伊知哉 慶應義塾大学／融合研究所

#### 実行委員

阿良田 剛	三菱電機株式会社
西田 豊	パナソニックシステムネットワークス株式会社
川添 雄彦	日本電信電話株式会社
伊能 美和子	日本電信電話株式会社
江口 靖二	デジタルメディアコンサルタント
岩田 天植	博報堂DYメディアパートナーズ株式会社
小野打 恵	株式会社ヒューマンメディア
尾崎 常道	株式会社ネクストウェブ
吉田 勝広	株式会社オリコム
引場 純一	株式会社スペースシャワーネットワーク
中村 秀治	株式会社三菱総合研究所
廣田 洋一	インテル株式会社
中野 雅之	株式会社電通
岳中 純郎	株式会社ニュースペース・コム
多田 周平	株式会社ニューフォリア
石戸 奈々子	デジタルサイネージコンソーシアム

## DSJ-07

6月15日(金)10:20~11:50

### デジタルサイネージクリエイティブの 今とこれから

～効果的広告事例 20 連続！ 著名クリエイターが斬る～

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b> 吉田 勝広	株式会社オリコム メディア本部 メディア推進室 室長
<b>Speakers</b> 大岩 直人	株式会社電通 コミュニケーション・デザイン・センター シニア・クリエイティブ・ディレクター
須田 和博	株式会社博報堂 エンゲージメントビジネスユニット エンゲージメントクリエイティブ局 クリエイティブディレクター
高野 文隆	株式会社アサツディ・ケイ コミュニケーション・アーキテクト局 クリエイティブ・ディレクター/コミュニケーション・アーキテクト

#### 概要 Overview

従来テレビやPCなど主に画面は横と決まっていた世界から、昨今、駅構内などで設置されている大画面サイネージなどはタテ型が主流になりつつあります。また、サイネージの設置条件によっては、ある程度の時間視聴が期待できるものや、歩行者導線上にあるもののように動いている人を対象にしたものなども存在しています。このような背景をベースに本セッションでは、現在のパッケージメディアにおける状況や今後のクリエイティブのあり方について気鋭のクリエイターの方々と考察します。

## DSJ-08

6月15日(水)12:50~14:20

### サイネージクリエイティブには新しい血が必要

～モーショングラフィックスとサウンドクリエーション～

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b> 江口 靖二	デジタルメディアコンサルタント デジタルサイネージコンソーシアム常務理事
<b>Speakers</b> 大森 聖	TO-FU
山口 哲一	株式会社バグコーポレーション 代表取締役

#### 概要 Overview

そのサイネージ、やっぱり誰も見てないでしょ。だってインパクト無いし。気がつかないし。そもそも誰もサイネージ見ようと思って街歩いてないし。このセッションではモーショングラフィックスというシンプルな文字や図形を効果的に動かすことで視認性を高め、インパクトある表現方法と、サイネージでは見落とされがちなサウンド、音楽といった異なる2つの視点に注目しながら、それぞれの側から見たデジタルサイネージのダメなところと、大いなる可能性についてを議論します。独りよがりなコンテンツクリエイティブからの脱却です。

# DSJ-05

6月14日(木) 14:40~16:10

## デジタルサイネージにおけるアカウントビリティ ～デジタルサイネージの媒体効果をどう説明するか～

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>吉田 勝広</b> 株式会社オリコム メディア本部 メディア推進室 室長
<b>Speakers</b>	<b>山本 孝</b> 株式会社ジェイアール東日本企画 交通媒体本部 媒体開発部 部長 <b>中野 雅之</b> 株式会社電通 アウト・オブ・ホーム・メディア局 業務開発部 プロジェクト・マネージャー <b>野原 久男</b> 株式会社ビデオリサーチ 調査業務局局次長

概要	Overview
----	----------

デジタルサイネージは、能動的にせよ受動的にせよ人々に見られなければならないものです。そうでないと効果が見込めないし、媒体として生き残れません。媒体効果について、おそらく一番要求が厳しいのは広告主様ではないでしょうか。存在感が増しているデジタルサイネージについても、広告会社や媒体社は、広告主様に対して広告効果の説明責任（アカウントビリティー・Accountability）を求められています。デジタルサイネージの広告効果をどう説明しているのか。調査データはどういうものがあり、統一的な効果指標はあるのか。より効果的な媒体作りはどう行なっていったのか。デジタルサイネージの広告ビジネスで、広告売上を拡大させている広告会社、媒体社、それに調査会社、それぞれのプロフェッショナルによるパネルディスカッションで、明らかにしていきます。

概要	Overview
----	----------

# DSJ-06

6月14日(金) 16:30~18:00

## ワークスペースサイネージ・NEXT

～オフィスサイネージの最新トレンドから実導入現場まで検証～

講師	Chair/ Speakers
<b>Chair</b>	<b>喜多村 真</b> 富士フィルムイメージングシステムズ株式会社 事業開発室
<b>Speakers</b>	<b>福永 泰男</b> サイバーステーション株式会社 代表取締役社長 <b>粕谷 貴司</b> 株式会社 竹中工務店 ワークプレイスプロデュース本部 ITソリューショングループ

概要	Overview
----	----------

急速な情報化への対応が求められるオフィス、工場生産現。作業状況や情報共有などの可視化手段として、ワークプレイスにおけるデジタルサイネージの利用が進んでいます。様々な問題解決をデジタルサイネージで行う最新鋭の事例を紹介。導入の経緯、計画、設置、運用から費用対効果の考え方まで実導入に関わる方々との見識を共有し、オフィスサイネージのトレンド・考え方・未来まで掘り下げていきます。

概要	Overview
----	----------

# DSJ-03

6月13日(水) 16:30~18:00

## 統合コミュニケーションデザインとデジタルサイネージ

講師	Speaker
----	---------

**Speaker** **柳 貴男** 株式会社博報堂D Yメディアパートナーズ 関西支社 メディアソリューション局 統合コミュニケーションプランング部 シニアメディアプランングディレクター、テクニカルメディアプロデューサー

概要	Overview
----	----------

インターネットの普及からソーシャルメディア、スマートデバイスの出現により、メディア環境は大きく変化した。それにともなってコミュニケーションデザインの手法もさまざまな変化を遂げ、コミュニケーションツールとしてデジタルサイネージも重要な役割を担っている。今回は、そうした時代の変化を踏まえて実施した既存デジタルサイネージを活用したコミュニケーション事例からオリジナルデジタルサイネージをプロデュースしたもので、デジタルサイネー ジを活用した統合コミュニケーションデザインの事例を紹介しながらこれからの時代のコミュニケーションにおけるデジタルサイネージの役割を考えていく。

概要	Overview
----	----------

概要	Overview
----	----------

## DSJ-04

6月14日(木) 12:50~14:20

## 新・東京サイネージ百景

～デジタルメディア、ソーシャルメディア激変の渦中における東京最新事例から考えるデジタルサイネージの行く末は如何に？～

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>江口 靖二</b> デジタルメディアコンサルタント デジタルサイネージコンソーシアム常務理事
<b>Speakers</b>	<b>菅原 淳之</b> ビーディーシー株式会社 代表取締役 <b>山本 孝</b> 株式会社ジェイアール東日本企画 交通媒体本部 媒体開発部 部長 <b>佃 直幸</b> シャープ株式会社 国内営業本部 ディスプレイシステム営業部 システム設計グループ 主事 <b>大坂 智之</b> NEC テレコム・コンテンツソリューション事業部 シニアエキスパート

概要	Overview
----	----------

いまや世界でも有数のサイネージ都市である東京。東京スカイツリー、ソフトバンクショップ、ユニクロ銀座などなど、2012年に新たに出現した東京のデジタルサイネージは規模も技術も素晴らしい。しかし、こうした技術はデジタルサイネージだけに恩恵をもたらしているわけでは決してなく、WEB、ソーシャルメディアはもちろん、放送までもこの変革にさらされている。今後、無線系を中心にネットワークはますます使いやすくなり、加えてHTML 5 がもたらすインパクトは計り知れない。デジタル化によってハードウェアに差異がなくなり、テレビセットメーカーが苦境に立たされているのは周知のとおりだ。ではデジタルサイネージはどうだろう。2012年に続々導入されたサイネージは、何のために設置され、どういうメリットをだれに提供できているのか。それは機器の優劣を超えた競争のスタートである。本セッションでは、こうした東京の最新のサイネージ事例を紹介つつ、都市空間、都市生活におけるデジタルサイネージのあり方についてパネリストと議論してみたい。

概要	Overview
----	----------

# DSJ2012

Digital Signage Japan  
デジタルサイネージ ジャパン

# ROOM 201A

P30 参照

概要	Overview
----	----------

6月13日(水)	6月14日(木)
<b>DSJ-01</b> 12:50 ↓ 14:20	<b>DSJ-04</b> 12:50 ↓ 14:20
<b>HTML5が与えるマルチスクリーンメディアへのインパクト</b> <b>チーフ</b> 羽田野 太巳 / 株式会社ニューフォリア 最高技術責任者 <b>スピーカー</b> 井原 雅行 / 日本電信電話株式会社 NTTサイバーソリューション研究所 ヒューマンアプライアンスプロジェクト 主幹研究員 工学博士 瀬古 俊一 / 日本電信電話株式会社 NTTサイバーソリューション研究所 ヒューマンアプライアンスプロジェクト 研究員 榎堀 武 / 株式会社日立製作所 都市開発システム社 ソリューション事業部 ビルソリューション本部 メディアサービス部 部長代理	<b>新・東京サイネージ百景</b> ～デジタルメディア、ソーシャルメディア激変の渦中における東京最新事例から考えるデジタルサイネージの行く末は如何に？～ <b>チーフ</b> 江口 靖二 / デジタルメディアコンサルタント デジタルサイネージコンソーシアム常務理事 <b>スピーカー</b> 出原 淳之 / ビーディーシー株式会社 代表取締役 山本 孝 / 株式会社ジェイアール東日本企画 交通媒体本部 媒体開発部 部長 佃 直幸 / シャープ株式会社 国内営業本部 ディスプレイシステム営業部 システム設計グループ 主事 大坂 智之 / NEC テレコム・コンテンツソリューション事業部 シニアエキスパート

<b>DSJ-02</b> 14:40 ↓ 16:10	<b>これが地域型マルチスクリーンとアプリ連携の決定打～地域で小さく確実に回せる、長野県佐久市エリアでの新事業～</b> <b>チーフ</b> 江口 靖二 / デジタルメディアコンサルタント デジタルサイネージコンソーシアム常務理事 <b>スピーカー</b> 吉田 達矢 / スクリプトサポート事業組合 会幹会社社長 コミュニケーションプランナー 半田 かつ江 / 久米岩村田商店街振興組合Web担当理事IT推進担当 小林 尚美 / さくりすITサポート事業組合 佐久岩村田商店街振興組合Web担当理事IT推進担当 工藤 美幸 / 長野県佐久市 株式会社ロケッコ 取締役 津中 慎一 / NTTアイティ株式会社 サイネージ事業部 草水 美子 / 株式会社QOLP 代表取締役
--------------------------------------	--

<b>DSJ-03</b> 16:30 ↓ 18:00	<b>統合コミュニケーションデザインとデジタルサイネージ</b> <b>チーフ</b> 柳 貴男 / 株式会社博報堂D Yメディアパートナーズ 関西支社 メディアソリューション局 統合コミュニケーションプランング部 シニアメディアプランングディレクター、テクニカルメディアプロデューサー
--------------------------------------	--

<b>DSJ-05</b> 14:40 ↓ 16:10	<b>デジタルサイネージにおけるアカウントビリティー～デジタルサイネージの媒体効果をどう説明するか～</b> <b>チーフ</b> 吉田 勝広 / 株式会社オリコム メディア本部 メディア推進室 室長 <b>スピーカー</b> 山本 孝 / 株式会社ジェイアール東日本企画 交通媒体本部 媒体開発部 部長 中野 雅之 / 株式会社電通 アウト・オブ・ホーム・メディア局 業務開発部 プロジェクト・マネージャー 野原 久男 / 株式会社ビデオリサーチ 調査業務局局次長
--------------------------------------	---

<b>DSJ-06</b> 16:30 ↓ 18:00	<b>ワークスペースサイネージ・NEXT</b> ～オフィスサイネージの最新トレンドから実導入現場まで検証～ <b>チーフ</b> 喜多村 真 / 富士フィルムイメージングシステムズ株式会社 事業開発室 <b>スピーカー</b> 福永 泰男 / サイバーステーション株式会社 代表取締役社長 粕谷 貴司 / 株式会社 竹中工務店 ワークプレイスプロデュース本部 ITソリューショングループ
--------------------------------------	--

## これが地域型マルチスクリーンとアプリ連携の決定打～地域で小さく確実に回せる、長野県佐久市エリアでの新事業～

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>江口 靖二</b> デジタルメディアコンサルタント デジタルサイネージコンソーシアム常務理事
<b>Speakers</b>	<b>吉田 達矢</b> さくりすITサポート事業組合 合同会社吉揮 コミュニケーションプランナー <b>半田 かつ江</b> さくりすITサポート事業組合 じでたる屋フォト & デザインスタジオ 佐久岩村田商店街振興組合Web担当理事IT推進担当 <b>小林 尚美</b> さくりすITサポート事業組合 佐久、小諸、軽井沢地域ブログポータルサイト あさま日和 長野県佐久市 <b>工藤 美幸</b> 株式会社ロケッコ 取締役 <b>濱中 慎一</b> NTTアイティ株式会社 サイネージ事業部 <b>草水 美子</b> 株式会社QOLP 代表取締役

概要	Overview
----	----------

長野県佐久市で6月にスタートするマルチスクリーンをフルに生かした新事業が「あさまチャンネル」である。これは地元商店街とイオン、地域ポータルサイト、行政、位置情報サービスなどとの連携で、パソコン、スマートフォン、タブレット、デジタルサイネージをロケーションや状況に応じて利用しながら地元商店街と住民、行政が相互に利用するための新事業体である。そもそもこの取り組みの出発点は、デジタルサイネージでもマルチスクリーンでもない、2011年に内閣総理大臣賞を受賞した佐久市の岩村田本町商店街における地域活性化の取り組みがスタートである。この商店街では独自に複数の事業を立ち上げたり、地元のイオンとの地域WAONカードや商品仕入れの共通化などの画期的に取り組みを行ってきたところだ。こうした地域活性化に対して積極的かつ実績がある街で、地元に着したデジタルサービスを提供している個人商店と、すでに地域では非常に有名な地域ポータルサイトが、その情報流通をWEBだけではなくスマートフォン、タブレット、デジタルサイネージにも拡大していくものである。位置情報サービスも組み合わせることで、当エリアで今最も課題である地域回遊性の確保も実現させる。入れ物だけを無理やり助成金を使って構築して、まったく利用されない事例が後を絶たない中、ここでは地元の熱意ある人々が集まり、驚くほど金をかけずとも商店や住民に役立つサービスを目指している。この事例は日本全国に应用 可能であり、そのための参考になるセッションである。

概要	Overview
----	----------

# コンファレンスプログラムガイド

最新事例、クリエイティブ、アプリ連携など

## サイネージビジネス次へのヒントを探る充実のプログラム

～効果的広告事例20連発！著名クリエイターが斬る～

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>羽田野 太巳</b> 株式会社ニューフォリア 最高技術責任者
<b>Speakers</b>	<b>井原 雅行</b> 日本電信電話株式会社 NTTサイバーソリューション研究所 ヒューマンアプライアンスプロジェクト 主幹研究員 工学博士 <b>瀬古 俊一</b> 日本電信電話株式会社 NTTサイバーソリューション研究所 ヒューマンアプライアンスプロジェクト 研究員 <b>榎堀 武</b> 株式会社日立製作所 都市開発システム社 ソリューション事業部 ビルソリューション本部 メディアサービス部 部長代理

6月15日(金)	6月15日(金)
<b>DSJ-07</b> 10:20 ↓ 11:50	<b>デジタルサイネージクリエイティブの今とこれから～効果的広告事例20連発！著名クリエイターが斬る～</b> <b>チーフ</b> 吉田 勝広 / 株式会社オリコム メディア本部 メディア推進室 室長 <b>スピーカー</b> 大岩 謙人 / 株式会社電通 コミュニケーション・デザイン・センター シニアクリエイティブ・ディレクター 須田 和博 / 株式会社博報堂 エンゲージメントビジネスユニット エンゲージメントクリエイティブ局長 クリエイティブディレクター 高野 文隆 / 株式会社アサラー ディ・ケイ コミュニケーション・マーケティング クリエイティブディレクター / コミュニケーション・マーケット

<b>DSJ-08</b> 12:50 ↓ 14:20	<b>サイネージクリエイティブには新しい血が必要～モーショングラフィックスとサウンドクリエイション～</b> <b>チーフ</b> 江口 靖二 / デジタルメディアコンサルタント デジタルサイネージコンソーシアム常務理事 <b>スピーカー</b> 大森 聖 / TO-FU 山口 哲一 / 株式会社 / バグコーポレーション 代表取締役
--------------------------------------	--

<b>DSJ-09</b> 14:40 ↓ 16:10	<b>明日のデジタルサイネージロケーション、o2oの可能性</b> <b>チーフ</b> 川村 行治 / 株式会社インセクトマイクロエージェンシー <b>スピーカー</b> 小嶋 敦 / 株式会社空鼓み 代表取締役 長澤 孝輔 / 株式会社カドバヤ 取締役
--------------------------------------	---

(敬称略)

概要	Overview
----	----------

※本ガイドに記載の情報は 2012 年 5 月 25 日現在のものであり、内容は予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

# DSJ-02

6月13日(水) 14:40~16:10

## これが地域型マルチスクリーンとアプリ連携の決定打～地域で小さく確実に回せる、長野県佐久市エリアでの新事業～

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>江口 靖二</b> デジタルメディアコンサルタント デジタルサイネージコンソーシアム常務理事
<b>Speakers</b>	<b>吉田 達矢</b> さくりすITサポート事業組合 合同会社吉揮 コミュニケーションプランナー <b>半田 かつ江</b> さくりすITサポート事業組合 じでたる屋フォト & デザインスタジオ 佐久岩村田商店街振興組合Web担当理事IT推進担当 <b>小林 尚美</b> さくりすITサポート事業組合 佐久、小諸、軽井沢地域ブログポータルサイト あさま日和 長野県佐久市 <b>工藤 美幸</b> 株式会社ロケッコ 取締役 <b>濱中 慎一</b> NTTアイティ株式会社 サイネージ事業部 <b>草水 美子</b> 株式会社QOLP 代表取締役

概要	Overview
----	----------

# DSJ-01

6月13日(水) 12:50~14:20

## HTML5 が与えるマルチスクリーンメディアへのインパクト HTML5's Impact on Multiscreen Media

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>羽田野 太巳</b> 株式会社ニューフォリア 最高技術責任者
<b>Speakers</b>	<b>井原 雅行</b> 日本電信電話株式会社 NTTサイバーソリューション研究所 ヒューマンアプライアンスプロジェクト 主幹研究員 工学博士 <b>瀬古 俊一</b> 日本電信電話株式会社 NTTサイバーソリューション研究所 ヒューマンアプライアンスプロジェクト 研究員 <b>榎堀 武</b> 株式会社日立製作所 都市開発システム社 ソリューション事業部 ビルソリューション本部 メディアサービス部 部長代理

概要	Overview
----	----------

ウェブ技術であるHTML5は、さまざまな業界において利用が検討され始めていますが、デジタルサイネージも例外ではありません。本セッションでは、ウェブ技術者、研究開発者、デジタルサイネージに直接かかわるメーカーという三者三様の立場から、デジタルサイネージとHTML5をはじめとしたウェブ技術の 融合の可能性を語ります。そして、HTML5をはじめとしたウェブ技術は、現在のデジタルサイネージの課題を解決できるのか、そして、将来への期待についてパネルディスカッションします。

概要	Overview
----	----------

